全学共通科目

								カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーを達成するために ◎ 特に重要な項目　○ 重要な項目　△ 履修することが望ましい項目			
授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
大学を知る	1. 甲南女子大学の教育理念・歴史および本学の特色について理解する。|2. 大学が提供する様々なサポート体制について理解し、本学で学ぶ意義を考える。‖#女性 #女性教育	1. 甲南女子大学の教育理念・歴史および本学の特色について理解できる。|2. 女子大学である本学で学ぶ意義について、自分なりの考えを持つことができる。	2	1	前期	1	なし	◎	○	○	
アカデミックスキルズ	大学生活で必要となるさまざまな表現力を身に付ける。具体的には、読みやすい文章作成・レポートの書き方・敬語の使い方など、場面に応じて適切な表現ができるようになることをねらいとする。	1，てにをはの正確な使い方を身に付け、読みやすい文章を作成できる。|2，敬語表現の正確な使い方を身に付け、場面に応じて適切に表現できる。|3，資料を適切に用い、客観的なレポートを作成できる。|4，相手の話を理解しながら聞き、適切な質疑応答ができる。	2	1	前・後期	1	なし	◎	○	○	○
グループ討論トレーニング	分かりやすく自分の言いたいことをまとめる能力や制限的場面において適切にまとめる能力、相手の言いたいことを的確に理解する能力などは、日常生活の様々な場面において必要不可欠な能力である。本講義では、グループ討論を通してこれらの能力を実践的に養うことを目指す。|	1. 自分の言いたいことをわかりやすく表現する力を身につける|2. 相手の言っている内容を適切に理解できるようになる|3. 1および2を踏まえたうえで、適切な討論ができるようになる。	2	1～	前・後期	2	なし	○	○	◎	○
思考力トレーニング	社会の諸事象を探求の対象として捉え、現実の課題を解決するための視点と能力を身につけ、かつ、そのための情報を発信する能力を身につけることを目標とする。|そのために、批判的能力や思考能力、情報発信能力を身につける。	・設定された、もしくは自ら設定した課題について、資料や文献調査を踏まえて分析・考察し、自分なりの結論を導くことができる。‖・ミニ論文や発表で、自分の結論を論理的かつ明確に第三者に伝えることができる。‖・第三者のミニ論文や発表に対して、適切に批判することができる。|	2	2	前・後期	1	グループワーク、 グループ・ディスカッション	○	○	◎	△
日本語リテラシーⅠ	社会生活において必要な、物事を多面的に捉える思考や、自分の考えを筋道立てて論じる方法を身につける。毎回の授業で問題を解き、課題にそった文章を作成する。	様々な社会問題や事象を取り上げた文章を読み、問題を把握して分析する。他者の意見を正確に捉え、自身の考えを論理的に述べる方法を習得する。|※文章検準2級レベルの問題を取り上げる。|	2	1	前期	1	なし	○	○	◎	△
日本語リテラシーⅡ	前期で学んだ知識、文章作成の方法を基に発展させる。社会生活において必要な、物事を多面的に捉える思考や、自分の考えを筋道立てて論じる方法を身につける。毎回の授業で問題を解き、課題にそった文章を作成する。|	様々な社会問題や事象を取り上げた文章や新聞記事などを読み、問題を把握して分析する。他者の意見を正確に捉え、自身の考えを論理的に述べる方法を習得する。|※文章検2級レベルの問題を取り上げる。‖	2	1	後期	1	なし	○	○	◎	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 （○印は必修）	配当年次	開講区分	レベル （低1～4高）	アクティブラーニング※の実施について （具体的にお書きください）	知識・理解 （基礎力）	汎用的技能 （思考力・実践力）	態度・志向性 （思考力・実践力）	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
リーダーシップ入門	甲南女子大学では、「リーダーシップの甲南女子大学」を旗印として、できる限り多くの学生が、新しい時代に対応した「全員発揮型のリーダーシップ」を身につけることを目指している。「リーダーシップ入門」はその入門編として位置付けられた科目である。 【目的】 リーダーという役職や権限に関わらず、チームの全員がそれぞれの「自分らしさ」を活かしてチームに貢献するという、新しい時代に対応した「全員発揮型のリーダーシップ」について理解し、自分なりに発揮できるようになる。 リーダーシップを効果的に発揮するために必要となる「論理思考力」、「質問力」、「自己他者理解」の基礎的スキルを身につける。 【方法】 4～5人でチームを作り、グループワークに取り組む。定期的に振り返りや相互フィードバックを行い、自分やチームメンバーの行動がチームに与えた影響を可視化し、改善することを繰り返す。 【期待される効果】 ●自分の強みと弱みを理解し、効果的にチームに貢献できるようになる。 ●チーム活動での経験を自分の学びと成長に繋げられるようになる。 ●「論理思考力」、「質問力」、「自己他者理解」について理解し、これらを活用して効果的なリーダーシップを発揮できるようになる。 ●女子大学という環境では、女性であることを意識せず、自分の特性を深く理解することが期待できる。 【授業の特徴】 昨年度の受講生である学習アシスタント(LA)が教員と共に授業進行や質問対応を行い、受講生の学びを丁寧にサポートする。 【科目の設計に関する注意事項】 ●前期「リーダーシップ入門」と後期「リーダーシップ基礎」の両方の単位を取得して申請することで、「甲南女子大学リーダーシップ・プログラムの認定証(基礎レベル)」が授与される。詳しくは学生要覧の「リーダーシップ・プログラム」のページを参照すること。 ●1年次の前期と後期の科目を連続受講することにより、4年間の学生生活で最も成長実感を持つことができるよう設計された科目である。可能な限り、1年次で前期金曜1限または3限の「リーダーシップ入門」と後期金曜1限または3限の「リーダーシップ基礎」を両方受講することを推奨する。1限と3限は同じ内容のため、例えば前期は1限、後期は3限を履修しても問題ない。	●「全員発揮型のリーダーシップ」の特徴と現代社会において必要とされる理由を説明できる。 ●自分の考えを、「要は」「例えば」「なぜなら」の3要素に分解して文章として記述できる。 ●質問の種類と効果について200字程度で説明できる。 ●自己他者理解を通じた学びと、今後新たに発揮したいリーダーシップについて、それぞれ200字程度で説明できる。 ●授業を通じたリーダーシップに関する成長過程を300字程度で説明できる。 ●授業を通じたリーダーシップに関する学びを今後どのように活かしたいか、300字程度で説明できる。	2	1～	前期	1	全ての授業回においてアクティブラーニングを導入する。グループワークの前後に目標設定、振り返り、フィードバックを行い、グループワークのプロセスや自分の影響力を認知し、自己調整を図るような支援を行う。	△	○	◎	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
リーダーシップ基礎	甲南女子大学では、「リーダーシップの甲南女子大学」を旗印として、できる限り多くの学生が、新しい時代に対応した「全員発揮型のリーダーシップ」を身につけることを目指している。「リーダーシップ基礎」は「リーダーシップ入門」に続く、「全員発揮型のリーダーシップ」の基礎を実践的に学ぶ科目である。 【目的】 リーダーという役職や権限に関わらず、チームの全員がそれぞれの「自分らしさ」を活かしてチームに貢献するという、新しい時代に対応した「全員発揮型のリーダーシップ」の発揮方法についてさらに実践的に理解を深め、その影響力と範囲を広げる。 【方法】 4～5人でチームを作り、チーム対抗形式でプロジェクトに取り組む。プロジェクトの中間と最後に振り返りや相互フィードバックを行い、自分やチームメンバーの行動がチームに与えた影響を可視化し、改善することを繰り返す。 【期待される効果】 ●チームの状態とチームメンバーの特性を観察したうえで、自分の特徴を活かしたリーダーシップが発揮できるようになる。 ●自分の強みとその活かし方、また、自分の弱みとその補い方について、さらに深く理解できるようになる。 ●リーダーシップの学びにおける振り返りやフィードバックの重要性を理解し、それらを自分の成長に繋げることができるようになる。 ●女子大学という環境では、女性であることを意識せず、自分の特性を深く理解することが期待できる。 【授業の特徴】 昨年度の受講生である学習アシスタント(LA)が教員と共に授業進行や質問対応を行い、受講生の学びを丁寧にサポートする。 【科目の設計に関する注意事項】 ●前期「リーダーシップ入門」と後期「リーダーシップ基礎」の両方の単位を取得して申請することで、甲南女子大学リーダーシップ・プログラムの認定証(基礎レベル)が授与される。詳しくは学生要覧の「リーダーシップ・プログラム」のページを参照すること。 ●1年次の前期と後期の科目を連続受講することにより、4年間の学生生活で最も成長実感を持つことができるよう設計された科目である。可能な限り、1年次で前期金曜1限または3限の「リーダーシップ入門」と後期金曜1限または3限の「リーダーシップ基礎」を両方受講することを推奨する。1限と3限は同じ内容のため、例えば前期は1限、後期は3限を履修しても問題ない。	●毎週の授業の最初にリーダーシップ目標を設定し、授業の最後に振り返りと相互フィードバックができる。 ●中間振り返りと最終振り返りにおいて、自分とチームメンバーのリーダーシップに対するフィードバックを正負両面でそれぞれ1つ以上記述できる。 ●振り返りをもとに、チーム活動の良い点・改善できる点とそれぞれの理由、今後自分が意識する行動を200字程度で記述できる。 ●授業を通じたリーダーシップに関する成長過程を300字程度で説明できる。 ●授業を通じたリーダーシップに関する学びを今後どのように活かしたいか、300字程度で説明できる。	2	1～	後期	2	全ての授業回においてアクティブラーニングを導入する。グループワークの前後に目標設定、振り返り、フィードバックを行い、グループワークのプロセスや自分の影響力を認知し、自己調整を図るような支援を行う。	△	○	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 （○印は必修）	配当年次	開講区分	レベル （低1～4高）	アクティブラーニング※の実施について （具体的にお書きください）	知識・理解 （基礎力）	汎用的技能 （思考力・実践力）	態度・志向性 （思考力・実践力）	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
他者のリーダーシップ開発Ⅰ	「リーダーシップ入門」の授業内外において、学習アシスタント(LA)として受講生のリーダーシップを開発するための支援を行う学生が履修する科目である。 「リーダーシップ入門」の授業内では、授業の進行と時間管理、受講生のチームと個人の観察をふまえたリーダーシップ行動に対するフィードバック、グループワークへの介入、質問対応などを教員と連携して担当する。授業外では、受講生だった経験を活かして授業を準備するとともに、出欠や提出課題の管理、受講生への連絡や質問対応を行う。また、自分の経験学習を促進するため、毎回の授業前の目標設定、授業後の振り返りを記述し、KPT(Keep、Problem、Try)の視点で、継続すべき点と改善点を整理し、ポートフォリオとして書き溜めていく。 本授業ではまず、1日間の事前学習(LA研修)を行い、LAとしての役割をふまえたうえで、授業運営チームとしてのチームビルディングと、ロールプレイングによるグループワークへの介入のトレーニングを行う。毎回の授業では、複数のLAが協働的に学び合うため、それぞれのポートフォリオに記述した内容を共有し、教員も交えて意見交換や相互フィードバックを行う。 以上のような取り組みにより、LAとしてのファシリテーション、振り返り、介入、フィードバックのスキルを向上させる。	●「リーダーシップ入門」の受講生のリーダーシップを開発するという視点で、授業の運営と受講生の支援ができる。 ●毎回の授業前の目標設定、授業後の振り返りを記述し、次回以降の授業に向けて、継続すべき点、改善点を整理し、ポートフォリオとして記述できる。 ●毎回の授業後の振り返りにおいて、相互フィードバックを行うことができる。 ●ポートフォリオと最終振り返りの内容をふまえ、LA活動における成長ストーリーを600字以上1000字以内で記述できる。	2	2～	前期	3	全ての授業回においてアクティブラーニングを導入する。グループワークの前後に目標設定、振り返り、フィードバックを行い、グループワークのプロセスや自分の影響力を認知し、自己調整を図るような支援を行う。	△	△	○	◎
他者のリーダーシップ開発Ⅱ	「リーダーシップ基礎」の授業内外において、学習アシスタント(LA)として受講生のリーダーシップを開発するための支援を行う学生が履修する科目である。 「リーダーシップ基礎」の授業内では、授業の進行と時間管理、受講生のチームと個人の観察をふまえたリーダーシップ行動に対するフィードバック、グループワークへの介入、質問対応などを教員と連携して担当する。授業外では、受講生だった経験を活かして授業を準備するとともに、出欠や提出課題の管理、受講生への連絡や質問対応を行う。また、自分の経験学習を促進するため、毎回の授業前の目標設定、授業後の振り返りを記述し、KPT(Keep、Problem、Try)の視点で、継続すべき点と改善点を整理し、ポートフォリオとして書き溜めていく。 本授業ではまず、半日間の事前学習(LA研修)を行い、LAとしての役割をふまえたうえで、授業運営チームとしてのチームビルディングと、ロールプレイングによるグループワークへの介入のトレーニングを行う。毎週の授業では、複数のLAが協働的に学びあうため、それぞれのポートフォリオに記述した内容を共有し、教員も交えて意見交換や相互フィードバックを行う。 以上のような取り組みにより、LAとしてのファシリテーション、振り返り、介入、フィードバックのスキルを向上させる。	●「リーダーシップ基礎」の受講生のリーダーシップを開発するという視点で、授業の運営と受講生の支援ができる。 ●毎回の授業前の目標設定、授業後の振り返りを記述し、次回以降の授業に向けて、継続すべき点、改善点を整理し、ポートフォリオとして記述できる。 ●毎回の授業後の振り返りにおいて、相互フィードバックを行うことができる。 ●ポートフォリオと最終振り返りの内容をふまえ、LA活動における成長ストーリーを600字以上1000字以内で記述できる。	2	2～	後期	3	全ての授業回においてアクティブラーニングを導入する。グループワークの前後に目標設定、振り返り、フィードバックを行い、グループワークのプロセスや自分の影響力を認知し、自己調整を図るような支援を行う。	△	△	○	◎
他者のリーダーシップ開発Ⅲ	「他者のリーダーシップ開発Ⅰ」の授業内外において、統括学習アシスタント(統括LA)としてLAのリーダーシップを開発するための支援を行う学生が履修する科目である。「他者のリーダーシップ開発Ⅰ」の授業内では、LAの目標設定、授業の実施、振り返りを支援すると同時に、同時開講されている複数クラスの観察と調整を行う。授業外では、LAとしての経験を活かしてLAの相談に対応する。また、自分の経験学習を促進するため、毎回の授業前の目標設定、授業後の振り返りを記述し、KPT(Keep、Problem、Try)の視点で、継続すべき点と改善点を整理し、ポートフォリオとして書き溜めていく。 以上のような取り組みにより、LAのリーダーシップを開発する統括LAとしてのファシリテーション、振り返り、介入、フィードバックのスキルを向上させる。	●「他者のリーダーシップ開発Ⅰ」の受講生(LA)のリーダーシップを開発するという視点で、授業の運営と受講生(LA)の支援ができる。 ●毎回の授業前の目標設定、授業後の振り返りを記述し、次回以降の授業に向けて、継続すべき点、改善点を整理し、ポートフォリオとして記述できる。 ●毎回の授業後の振り返りにおいて、相互フィードバックを行うことができる。 ●ポートフォリオと最終振り返りの内容をふまえ、統括LA活動における成長ストーリーを600字以上1000字以内で記述できる。	1	3～	前期	4	全ての授業回においてアクティブラーニングを導入する。グループワークの前後に目標設定、振り返り、フィードバックを行い、グループワークのプロセスや自分の影響力を認知し、自己調整を図るような支援を行う。	△	△	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (〇印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
他者のリーダーシップ開発Ⅳ	「他者のリーダーシップ開発Ⅱ」の授業内外において、統括学習アシスタント(統括LA)としてLAのリーダーシップを開発するための支援を行う学生が履修する科目である。「他者のリーダーシップ開発Ⅱ」の授業内では、LAの目標設定、授業の実施、振り返りを支援すると同時に、同時開講されている複数クラスの観察と調整を行う。授業外では、LAとしての経験を活かしてLAの相談に対応する。また、自分の経験学習を促進するため、毎回の授業前の目標設定、授業後の振り返りを記述し、KPT(Keep、Problem、Try)の視点で、継続すべき点と改善点を整理し、ポートフォリオとして書き溜めていく。 以上のような取り組みにより、LAのリーダーシップを開発する統括LAとしてのファシリテーション、振り返り、介入、フィードバックのスキルを向上させる。	●「他者のリーダーシップ開発Ⅱ」の受講生(LA)のリーダーシップを開発するという視点で、授業の運営と受講生(LA)の支援ができる。 ●毎回の授業前の目標設定、授業後の振り返りを記述し、次回以降の授業に向けて、継続すべき点、改善点を整理し、ポートフォリオとして記述できる。 ●毎回の授業後の振り返りにおいて、相互フィードバックを行うことができる。 ●ポートフォリオと最終振り返りの内容をふまえ、統括LA活動における成長ストーリーを600字以上1000字以内で記述できる。	1	3～	後期	4	全ての授業回においてアクティブラーニングを導入する。グループワークの前後に目標設定、振り返り、フィードバックを行い、グループワークのプロセスや自分の影響力を認知し、自己調整を図るような支援を行う。	△	△	○	◎
アクションラーニング演習	「リーダーシップ入門／基礎」で「自分が」効果的なリーダーシップを発揮する方法を学んだ学生を対象として、アクションラーニング(AL)コーチ養成の基本的なトレーニングを通じて、「他者が」リーダーシップを発揮できるように支援するための知識とスキルを身につける。 ALとは、行動(Action)しながら学ぶ(Learning)ことで、①問題解決、②リーダーシップ開発、③組織開発を同時に達成しようとする手法である。ALコーチはALセッション(質問会議)のコーチを担当し、チームの安心・安全な対話の場づくりを行う。 この授業ではまず、講義と課題図書によりALの基本的な考え方を理解する。授業の前半では、リーダーシップ開発と学習の鍵となる「質問」について掘り下げる。質問の効果とリーダーシップ開発との関連を具体例とともに学び、質問会議での実践を通して質問と傾聴する力を高めていく。 授業の後半では、講義によって振り返りと学習に関する知識を身につける。また、質問会議におけるALコーチを体験することで、チームを俯瞰して介入する視点を育成する。	●ALコーチとして、スクリプトに沿ったセッションの進行ができる。 ●毎回の事前学習教材の内容の要約と自分の考えや質問を、合わせて1000字程度で記述できる。 ●毎回の授業の振り返りを800字程度で記述できる。 ●ALコーチを担当したセッションの振り返りを、与えられたフォーマットに沿って記述できる。 ●毎回の課題図書の内容の要約と自分の考えを、合わせて1000字程度で記述できる。 ●授業外でALセッションを実施し、与えられたフォーマットに沿って振り返りを記述できる。 ●授業を通じたリーダーシップに関する成長過程を300字程度で説明できる。	1	2～	前期	3	全ての授業回においてアクティブラーニングを導入する。グループワークの前後に目標設定、振り返り、フィードバックを行い、グループワークのプロセスや自分の影響力を認知し、自己調整を図るような支援を行う。	○	◎	○	△
哲学入門	この授業では過去の有名な哲学者・思想家たちがどんなことを考えてきたのか、哲学者たちの生涯・背景・言葉を紹介しながら学ぶことを目的とする。哲学者とは、世界のこと、自分のこと、人間のあるべき姿、正義、真理、死、言語、生命等々、私たちを取り巻く様々な事柄を不思議に思い、自ら問いを立て、考え抜こうとした人たちである。そんなこと考えても役に立たないから仕方がないと考える人も多いと思う。事実、直接役立つことはないから、今すぐ使える知識が欲しい人がこの講義を受講しても得られるものはない。しかし、自分の生きるこの世界がそもそも自分が生きるに値する世界なのか、その意味を考えずにいられない、そんなことを考えている人ならば、この授業で何かヒントが得られるのではないかと思う。この授業では過去の哲学者の歴史・社会的背景を踏まえながら紹介し、時に哲学者の文章にも触れながら、自分ならどう考えるのか、ひとりひとりが小さな哲学者となり哲学的問いを引き受け自ら考えてもらいたい。また、特定の哲学者に拘らず「言葉」「生きる意味と死者の弔い」というテーマについても考えてみたい。‖注意点|1:この授業は座席指定を行う。|2:この授業は最後に持ち込み不可の試験を行う。|3:この授業は資料をMoodleから配信し、紙で資料が必要な人は各自プリントアウトしてもらう。	・哲学の基礎的知識を知る。|・哲学者や思想家の考えを知る。|・哲学者の言葉を理解する。|・生命、言語、身体、死、人生、といった自分の世界を形作る基礎的現象に関する幅広い教養を身に着け、哲学的に考え自分なりの意見をもつことができる。	2	1～	後期	1	なし	◎	△	◎	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
倫理学入門	倫理学の基本用語や様々な原理について理解し、この原理に立脚しつつ現代の生命倫理の問題を考察できるようになることを目的とする	「人はどのように生きれば〈よい〉のか」という倫理的な問いは、「自分(あるいは我々)はどのような人間に成長したいのか」という人格形成についての問いと結びつく。そしてこうした問いは、最終的に、「人間とは何であるのか」という人間学的な問いに至り着くように思われる。講義ではこうした問題を、さまざまな倫理思想や現代の生命倫理の問題と結び付けて、多角的に考察できるようになることを目的とする。|	2	1～	後期	1	講義「倫理学入門」では、パワーポイントで作成したスライドを使って授業を進めており、アクティブラーニングを積極的に取り入れている。例えば、「道徳性の発達理論」の紹介の回では、まず、具体的なモラルジレンマの状況をスライドで提示し、学生が自分ならどう行動するのかわ自分で考え、自分が選択した行為の根拠や理由を用紙に書かせ、後に担当者が回収して、代表的な意見を読み上げ、多様な意見に学生が耳を傾け、視野を拡げられるように配慮している、また、授業中に自分の意見を口頭でプレゼンする時間も設定する。	○	○	◎	△
宗教学入門	現代社会に存在する様々な宗教につていの基礎的な知識を身につけ、宗教について考えるられるようになる。|また、現代社会の様々な問題に宗教が関連していることを理解できるようになる。	様々な宗教に宗教について簡単に説明できるようになる。|宗教について考えらえれるようになる。	2	1～	後期	1	なし	○	○	○	◎
日本古典文学入門	本授業では、高校までの古典の授業とは少し違った観点から、古典文学作品を読み解いてみたい。|四季を重んじ、人生の節目を大切にする日本の伝統文化の原点を探り、関連する古典文学作品を|読みながら、当時の人々の暮らしや願いに思いを馳せたい。|1月から12月まで人々の楽しみであった行事や祭りなどを月毎に紹介し、古典文学作品とともに|味わっていきたい。またそれにまつわる食べ物があれば紹介していく。||特に古典文法や古典の知識がなくても、受講は十分可能である。||※講義スケジュールは変更になる場合がある。	1，古典文学作品の魅力、面白さを知る。|2，日本伝統文化の起源を人に説明できる。|3，現在の伝統文化や行事などを人に説明できる。|4，日本古典の和歌や歌語などを学ぶ。|5，資料を読む読解力やまとめる力が身に付く。|	2	1～	前期	1	なし	◎	△	○	△
日本近代文学入門	近代に生まれた文学を対象に、作品を読み味わいながら、当時の社会状況や思想及び作品が生まれた背景なども合わせて学んでいく。中でも、映画や雑誌、新聞など、メディアとの関わりにも目配せしつつ、豊穣な作品世界を味わう。	高校の授業で学ぶ範囲を越えて、幅広い視点から小説を読む方法を知る。	2	1～	後期	1	なし	◎	△	○	△
日本文化史	日本の絵巻物の作品を挙げ、絵巻物から見える日本文化について理解できるようになることを目的とする。絵巻物の画面に描かれている人々や風景は、制作当時の日本を今に伝えるものである。また絵巻物という独特な形式ゆえの表現などにも注目し、日本人の豊かな感性についても言及することで、絵巻物を美術史・文化史、両方の視点から捉え、多角的な視点で物事を捉える力を身につけることを目的とする。|#女性	日本の絵巻物について理解する。|多角的な視点で物事を捉える力を身につける。|見聞きした事象を、自分の言葉で表現することができる。	2	1～	前期	1	発見学習	○	△	○	◎
言語学入門	・この講義では、言語学の基礎的な知識を身につけるために、様々なテーマ(音声，ことばの単位、文のなりたち、さまざまな言語学の種類等)を学んでいく。	1. 言語学の各テーマに関する基本概念を説明できる。|2. 言語学の下位分野の概要を理解し、説明できる。	2	1～	前期	1	なし	△	◎	△	△
社会言語学入門	この講義では、社会階層やジェンダー、年齢などの様々な社会的要因と言語の関係を研究する社会言語学について、多様なトピックを学び、科学的証拠をもとに理解していく。また、ディスコース分析や会話分析などを用いた社会言語学のトピックの分析手法を学び、身の回りの事例について考えることをねらいとする。	1. 様々な社会的要因と言語の関係について興味・関心を深める。|2. 社会言語学の重要な概念について理解し、説明できる。|3. 学んだ分析手法を用いて、身の回りの事例について説明できる。	2	1～	後期	1	なし	△	◎	△	△
心理学概論	この講義では、はじめて心理学を学ぶ人を対象に、人間の心の基礎的なメカニズムについて幅広く学習し、心理学の全体像をつかむことを目的とします。|この授業は、対面形式で実施します。	心理学の歴史、心の発達、パーソナリティ、感覚・知覚、学習・記憶・思考、動機づけ、ストレスと心の健康、カウンセリングや心理療法、脳の構造と機能などの学習を通して、環境に適応していく上で心がどのよな役割を担っているのかを説明できる。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	△
人間関係論	人間関係における心のはたらきや、人間関係の礎となるコミュニケーションの理論を総合的に学び、理解できることを目的とする。	1. 人間関係についての理論を理解する|2.上記理論の理解をもとに、自身の人間関係に活かせるようになることを目指す	2	1～	前期	1	なし	○	○	◎	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
美術史概説	日本の美術史の中でも、世界中で人気を博している浮世絵について学びます。葛飾北斎と歌川広重、歌麿と写楽など、誰もが知っている浮世絵師について時代背景とともに詳しく学ぶことによって、その人気の秘密に迫ります。また甲南女子大学が所蔵する浮世絵の魅力についても紹介します。|学芸員課程の選択科目でもあります。	美術史研究の方法を知ることによって、興味のあるテーマをより深く探求し、その魅力を効果的に他者へ伝えることを目指します。また、調査研究結果をレポートにまとめて発表、意見交換することによって他者の意見を共有し、美術の見方を広げることを目標とします。	2	2～	前期	2	体験学習	◎	○	○	△
民俗学概論	・民俗学は、口頭で伝承されてきた文化を調査・研究する学問である。民俗学は、各地の人々が自然と向き合い、より良い社会を形成するための知恵や情報を重要視する。|・カレンダーや学校などはそれぞれ違う時期に始まり、一年のサイクルで繰り返される。多くの年中行事も毎年繰り返される。前期の講義では、日本における年中行事の本質と変遷について丁寧に解説する。お正月の神様・節分の鬼・お盆の先祖霊の共通点・相違点に論究する。	・日本の伝統文化について、民俗学の調査・研究の方法を理解する。|・太陽や月の運行に基づいた様々な暦についての基礎的知識を持つ。|・正月や節分ほかの日本の年中行事についてわかりやすく説明できる。	2	2～	前期	2	なし	◎	○	△	△
考古学概論	考古学は、さまざまな考古資料(遺跡や遺物)の研究に基づき、人類の過去を復元し、長期的な視座から「人とは何か」を考える学問です。この授業では、考古学をはじめて学ぶ人、考古学を通して日本や世界の古い時代の歴史に関する教養を身につけたい人を対象とし、考古学を基礎からわかりやすく解説します。|前期は、考古資料の基礎的な研究方法を学ぶことで、考古学的な知見がどのような研究手続きを経て得られているのかを理解できるようになることを目的とします。|	・考古学の基礎的な方法論や関連分野の研究手法について知り、考古学的な知見が得られるまでのプロセスを説明できるようになる。|・日本の考古学の具体的な研究事例を通して、旧石器時代～古墳時代を中心とした古い時代の文化や社会について説明できるようになる。|	2	2～	前期	2	本講義は、従来型の一方向的な講義による知識獲得(60分程度)をあえて重視する一方、受講者一人一人の主体的な学習を促すために意見・質問へのフィードバック(30分程度)をおこなっている。受講者は毎回の授業の終わりに、授業に対する感想・意見・疑問点を書いて提出する。次回の講義のはじめには、教員が提出された意見を紹介し、多様な視点や考え方を出席者全員で共有する。また、寄せられた質問・疑問点を10～15個ほどに絞って紹介し、前回の復習と補足を兼ねて質問への回答をおこなう。学期末のレポートでは、受講者はフィールドワークに出かけ、実物の考古資料に接する。授業時間外に身近な遺跡や博物館に行き、各自が興味のある考古資料を一つ選び観察しレポートにまとめる。講義内での事前学習で得た知識を活かしてその遺跡や遺物の概要を報告することにより、知識を自分なりの活きたものにする。上記のアクティブラーニングの実施状況は2019年度のものです。来年度以降は改善する場合があります。	◎	○	○	△
日本史概説	日本の歴史について、特に飛鳥・奈良時代を中心として近代までを学ぶ。|これまで学んできた日本の通史を確認するとともに、生活・文化・宗教・社会構造の変化に即して多面的に理解する。兵庫県南部地域を中心とした歴史についても考察する。また、正倉院宝物・正倉院文書について考察する。|さらに、史資料の取り扱い方を学び、史料批判をふまえて歴史を考えるという、歴史学研究に対する理解を深める。	授業を通して、歴史学に取り組む基本姿勢を学び、多面的な歴史像を理解して自分の意見を述べることができる。	2	2～	前期	2	実際に史料を読み、グループで議論することで、理解を深める。	○	◎	○	○
外国史概説	歴史研究は年号や人名といった過去の事例に関するデータを暗記することではありません。それは、過去と現代の間で交わされる積極的かつ豊かな「対話」と言うことができます。過去との対話を通して、私たちは過去を理解するだけでなく、自らを省みる機会や、現代社会における様々な問題を理解するための重要な示唆を得ることも可能となります。本講義の目標は、出席者がこうした「過去との対話」を進めるうえでの注意点などについて段階を踏んで理解を深めながら、併せて「外国の歴史を学ぶ」ことの意味を理解し、自分なりの意見を構築できるようになることです。	1) 具体的な事例に関する文献資料や絵画資料の読解を通して、高校までの「世界史」とは異なる「歴史の学び方」を理解する。|2) 過去の出来事に対し、当時の社会状況などを視野に入れながら考察し、史料に基づき論理的に理解を深めていくことの大切さを認識する。|3) 異なる時代や地域、文化を持つ社会に対する理解を深める。 |4) 外国の歴史を学ぶことの意味を改めて考え、自分の意見を持てるようになる。	2	3～	前期	3	なし	◎	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
日本国憲法	学生が，市民社会と憲法が深く結びついていることを理解できるようになることを目的とする。授業は対面で実施し，Moodleも活用する。このシラバスの内容は，状況により変更することがある。その場合は連絡する。なお，事前学修と事後学修については，第1回の授業で説明する。	(1)学生が，憲法により保障された基本的人権について自ら考えることができるようになる。|(2)学生が，選挙等の身近な事例を通して憲法上の政治制度について理解できるようになる。|(3)学生が，報道される憲法上の問題を，憲法体系に位置づけて理解できるようになる。	2	1～	前・後期	1	なし	○	○	◎	△
法学概論	学生が，法とはどういうものであるかを理解し，法的思考力を身につけ，それに基づいて社会の制度や事件を分析し，自己の見解を表現できるようになることを目的とする。状況により，このシラバスの内容を変更することがある。その場合は連絡する。なお，事前学修と事後学修については，第1回の授業で説明する。	(1)学生が，法の意義を理解できるようになる。|(2)学生が，法的思考力を身につける。|(3)学生が，社会の制度や事件を分析し，自己の見解を表現できるようになる。	2	1～	前期	1	なし	○	○	◎	△
政治学概論	この授業は、政治学の基礎的な内容を幅広く学ぶことで、現代の政治を理解する上で、重要なことがらを身につけるようになることを目的とします。|例えば、現代の政治はどのような仕組みで行われるのか。民主主義とはどのようなものか。政治を担う人々とは誰で、どのように動いているのか。といったことです。	この授業では、以下のことを身に着けることを目標とします。|1. 政治学の基礎を身につけることができるようになる。|2. 現代社会の様々な政治現象と課題について、この授業で学習した政治学の基礎的な知識を用いながら、自 分の言葉で説明できるようになる。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	△
経済学概論	高校の「地理・歴史」および「政治経済」で習った経済分野の知識を復習しながら、日本経済の現状と世界経済の流れについて基礎的な理解をすることを目標とします。	経済学と経済の仕組みが理解できるようになります。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	△	
社会学概論	社会学は、人間を社会的存在としてとらえようとする比較的新しい学問である。この授業では、主要な概念を取り上げて、その基本的な考え方を論じる。|	社会学の基本的な考え方を身につける。|具体的には、|1. 社会学の基礎的用語および主要学説・理論を理解する。|2. それをとおして、社会学的思考および視点を身につける。|3. 社会学的な思考に基づいて、現代社会の問題を考察する力を身につける。|4. 自分自身の意見を形成・表現する力を身につける。	2	1～	前期	1	なし	○	○	○	◎
メディア表現入門	本講義はメディア表現学科の専任教員によるオムニバス科目です。写真、映像、演劇・身体表現、マンガ・アニメ、ワークショップ、デザイン、アート、文学、ニューメディア、インターネットといった幅広いメディア表現を対象とします。メディア表現に関する多様な作品やプロジェクトに触れ、その表現方法の特徴や理論的な背景、分析方法などを学ぶことによって、メディア文化に対する理解を深めます。	写真、映像、演劇・身体表現、マンガ・アニメ、ワークショップ、デザイン、アート、文学、ニューメディア、インターネットについて、それぞれは、どのような表現方法で、他者や社会といった受け手とコミュニケーションするメディアなのか、その伝達内容とともに理解を深めます。|①文化的意義・役割や影響、背景となる歴史や基本的な理論などの、メディアの概要(受け手とのコミュニケーション)について理解することができる。|②メディアの基本的な表現方法やその特徴について理解することができる。|③メディアの伝達内容について探究することができる。|	2	1～	前期	1	発見学習	◎	○	○	△
人権教育	人権という言葉を知らない人はいないはずだ。そして、人権の保障が大事であることも、誰もが同意するだろう。しかし、「人権とは何か」と問われてはっきりと答えられる人は、おそらく少ない。では、守るべき「人権」の意味がわからずに、それを守ることができるだろうか。「人権」とは何かを知らずに、それを教えることができるだろうか。| この授業では、教員・社会人として、あるいは市民として生活する際に必要となる人権の知識や感覚を基礎的なところから理解すると共に、人権を「自分ごと」として感じられるようになることをねらいとする。|#SDGs	①人権に関する基礎的な知識について理解し、説明できるようになる。|②具体的な人権課題ついて基礎的な事実を知るとともに、自分の意見を表現できるようになる。|③人権と自分自身の関連について多面的に理解できるようになる。|④人権教育の基本的な視点について理解することができる。	2	1～	前・後期	1	なし	○	◎	○	○
ボランティア論	日本社会におけるボランティアの意義、動向、活動、課題について学ぶ。|＃SDGs||	社会にどのように関わるか、また貢献できるのかを考え、行動できる。|自分自身の問題意識について考えると共に、他者の意見を聞き、多様な考えを知り、自身の意見と照らし合わせて社会課題について考える力を身につける。| 【MCC(Multicultural Communication Competencies)10 身につける力】|◎問題解決理解 ○社会問題理解	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 （○印は必修）	配当年次	開講区分	レベル （低1～4高）	アクティブラーニング※の実施について （具体的にお書きください）	知識・理解 （基礎力）	汎用的技能 （思考力・実践力）	態度・志向性 （思考力・実践力）	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
文化人類学入門	この授業では、文化人類学の基本的な方法と知見を具体的な事例とともに学びます。文化人類学は、長期のフィールドワーク（現地調査）を通じて、人間の多様な文化・社会的な営みについて研究する学問です。フィールドで出会う人々の生き方や考え方は、私たちにとってすぐに理解できるものとは限りません。むしろ、「なんじゃコリャ？！」「なんでこんなことやってるんだ？！」という問いを突きつける〈他者〉との出会いこそ、この学問の出発点にあります。異質な他者とともにものを見、聴き、考える中で自分自身をたえず成長・変化させていく文化人類学の面白さをぜひ体験してみてください。	1）文化人類学の基本的な方法と知見を具体的な事例とともに学ぶことで、自他の世界についての「当たり前」を疑い、それをより広い視野の下で捉え直すことができる。|2）1）で得た気づきや発見を、身近な事例を挙げながら自分の言葉で人に説明することができる。	2	1～	後期	1	なし	◎	△	○	△
子ども・子育て入門	子どもについての基本的な知識理解と同時に、子育ての価値や意義を学ぶ。|#SDGs	・多様な子育て支援の現状と意義を説明できる。|・子どもの発達を多面的に理解し、子育てと関連付けて考えることができる。|・国内外の教育・保育の歴史的背景をふまえ、子育ての現代的課題を捉えることができる。|	2	2～	後期	2	なし	◎	○	○	
AIとライフデザイン	現代は「情報社会」と言われることがあるように、情報技術の発展につれて様々な情報メディアが登場し、社会に普及し、影響を与えている。この授業のテーマとなっている「AI」（人工知能）もその一つであり、今後世の中に大きな影響を与えることだろう。AIについて、特に私たちの生活とのかかわりを考えていくことが、この授業のねらいである。|	現代の情報社会について、特にコンピュータを中心として十分に理解し、AI（人工知能）についてもその基礎知識を得て、それが与える影響について考えるための基盤とすること。	2	2～	後期	2	なし	◎	○	○	
人文地理学	私たちの暮らしは、「空間」の中で営まれています。住まう、学ぶ、食べる、着る、買う、働く、集まる、分かれる、動かす、見る、聞く、話す、育てる、立ち直る･･･といった、多様で豊かな人間の営みを「空間」の視点から捉え、理解しようとする学問を「人文地理学」と呼びます。グローバルとローカル、地域や都市、景観保全や観光、環境や経済、文化、産業、福祉、災害など、幅広いテーマを扱いながら、人文地理学的なものの見方・考え方を身に付けることを目指します。高校までに「地理」という教科に親しんできた人も、そうでない人も、身近な地域や題材を通じて、暗記科目ではない「地理学」の面白さと奥深さを学びます。	・身近な環境から世界的な動向まで、多様な空間スケールを往還しながら、様々な事象を空間的に理解し説明することを目指す地理学的な思考法を習得する。|・空間と時間と社会という3つの軸から多様な人文地理学的事象を理解することができる。	2	2～	前期	2	グループ・ディスカッション	○	◎	○	○
生物学の基礎	この授業では、現代の生物学が形成されるうえでのエポックメイキングとなった発見について学ぶ。時代背景にも注目し、これらの発見が社会に与えた影響についても学ぶ。|講義前半では医学・生物学の「病原体」との格闘の歴史をたどりながら、科学的実証主義について学んでもらう。|講義後半では遺伝子についての研究とそれが社会に与えた影響について学ぶ。|	科学の持つ合理性や公開性は結局、有益だから生まれたものだということを理解し、今後の皆さんの生活に生かすこと。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	△	○	
化学の基礎	私達の身体や衣料、食品、医薬など身近で具体的な事例をもとに化学の基礎を理解する。また昨今の環境問題や資源エネルギー問題など現代社会の諸現象を理解するうえで欠くことができない知識をはじめ、医療看護、食品、衣料、素材関連等の分野を専攻する学生には、専門科目や関連する実験実習等の履修に必要な基礎知識を身につけることを目的とする。|	健康で豊かな生活を送り、また現代社会を理解するうえで必要な化学の知識を持つこと。また関連する専門科目の履修に繋がる基礎知識を習得すること。具体的には、\①化学の基礎的な概念を理解すること|②身体を構成している物質や、代謝などの生体反応について理解すること|③衣食住など生活にかかわる物質について、その構造や性質を理解すること|④環境問題の化学的側面を理解すること|⑤健康で安全な生活を送るために必要な知識を習得すること	2	1～	前期	1	なし	◎	△	○	
生化学の基礎	私たちは特に意識することなく生の営みを続けることができている。これは自動的に走り続けるシステムが私たちを支え続けてくれているからである。|この授業ではそういった「食う寝る遊ぶ」を支えているシステムについて学ぶ。|化学物質の暗記を強いるようなことはない。|Moodleを使用する予定なので、情報ツールを準備しておくこと。	生命が自動的に動く機械システムを持つということを知り、同時に、本人の意思などにより容易に変革しうる面も持つことも知ること。	2	1～	前期	1	なし	◎	△	○	

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
物理学の基礎	自然現象で起こる物の道理や仕組みが理解でき、合わせて医療機器に代表される各種機器類の動作原理の理解を目指します。本講義では身近にある物体や現象を取り上げ、様々な実技を実施することで理解を深めることのできる授業を展開します。|内容では力と運動、圧力や浮力、熱と光、電気と磁気などを対象として基本的な養護や法則も紹介しながら、医療分野や自然科学分野への関わりに物理学の必要性を習得します。|授業の実施形態:対面授業	物の道理を定量かつ定性的に捉え、物理の基本現象や法則を理解できる。|医療や自然科学分野での応用技術に対する物理学の使用の発端とする。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	○	○	△
数学の基礎	数学の基本的な概念や考え方を学修する. 高校数学の「さらに先に進む」ことを目指すものではなく, 高校数学が「何であったのか」を振り返り理解することを目指す. 例えば, この講義では微分積分も紹介するが, 計算は目的ではなく, そもそも微分積分とは何であるのかを理解し, 感覚的に説明できるようになることを目指す. 高校の微分積分が苦手であった学生でも取り組めるし, 逆に得意だったら容易だという訳でもない.	実社会の中に現れる基礎的な数学的な概念を取り扱えるようになる. 統計学に必要となる数学的基礎概念を取り扱えるようになる.	2	1～	前期	1	問題解決学習	○	△	△	△
統計学の基礎	統計学とは、実験や観察によって得られたデータから、そのデータの背後にある世界のあり方を客観的に理解する学問である。|この講義では実際にデータを用いながら、データの読み方や表し方、扱い方を習得し、統計学の基本的な概念と考え方、計算方法を学ぶことをねらいとする。	(1)統計学の基本的理論を理解し、標準的な問題に答えることができる。|(2)Excelを利用し、簡単な分析ができる。|(3)データを集め、まとめ、伝えることができる。	2	1～	後期	1	問題解決学習	◎	○	△	△
生態学入門	生態学の基礎的な知識や考え方について説明する. 基礎的な事項として進化と遺伝, 個体群の動態を解説し, 次に群集の動態について説明をする. 最後に全体のまとめとして, 生物多様性や生活との関連を取り上げ, 生態系と人間との関わりについて解説する. |	・多様な生物の生き方, 生物相互の関係, 生物と環境との関係を理解する. |・生態学の基礎的な概念を説明できる. |・野外に生息する動植物とその生息環境との関係を考察できる.	2	1～	前期	1	なし	◎	○	△	
生命科学入門	DNAは生命の設計図」とよく言われるが、その設計図がどう実現するのかはまだ謎に満ちている。|このような「実現」がどのように起こるのかを、この講義ではみていく。|また、生命が環境条件にあわせてエピゲノミックなコントロールを自らに加え、環境適応する仕組についてもみてゆく。|Moodleを使用する機会が多いので、情報ツールを用意しておくこと。	哺乳類の抱える長所短所を理解する。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	△	○	
自然環境学入門	自然環境には, 生物だけでなく非生物も含まれている. また, 地域によっても多様な自然が存在する. このような自然環境は人間活動が活動するための資源として重要である. 本科目では, 身近な自然環境について観察する方法を身に付けるとともに, 自然環境をうまく活用する方法を理解する基礎を理解することを目的とする. まず, 自然環境の概要を解説する. 次に, 自然環境の活用方法を確認する. さらに, 今後の活用方法について検討をする.	・地球・生物・人類の歴史について説明できる. |・身の回りの生物を適切に観察することができる. |・世界の気候と日本の植生について説明できる. |・都市の成り立ちと自然環境の関係を考察できる.	2	1～	後期	1	なし	◎	○	△	
地球環境論	講義前半では私たちの知る地球環境が形成されるまでの歴史を概括する。地球自身のダイナミズムによる地球環境の変化と生命活動が原因となった地球環境の変化が重なり合って、現在の地球環境がある意味、奇跡的に生まれたことを理解することが目的である。|後半ではその地球環境の中で生まれた人類とその文明が、地球のダイナミズムによりどう影響を受けるのか、あるいは地球環境に対しどんな変成作用を及ぼしているのかを考えていく。|講義は対面を基本とするが、Moodleも使用するので情報ツール(携帯、パソコン、iPAD類)を準備しておくこと。また、授業時間延長をいかし、より双方向性の高い方法による講義実施も模索していきたい。	感情論に流されることなく環境問題を考えられるだけの基礎的思考力を身に着ける。	2	2～	前・後期	2	なし	◎		△	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
自然地理学	地形・地質を中心に、自然地理学の基礎について講義する。授業は、中学校「社会」、高等学校「地理歴史」の教員を目指す学生にとって必須の内容を中心に、歴史的な視点も含めつつ、自然災害との関連性についても紹介する。また、教科書(テキスト)に指定した地図帳を授業時間内に頻繁に参照することで、受講生の空間認知度を少しでも高めることも目的としたい。	自然地理学(地形学および関連分野)の基本的情報・知識を備え、それを論理的に分析・表現できる汎用的技能を身に着けることを目標に置く。加えて、本授業の履修後も、当該の学問分野に関して自律・自立して学習できる態度・志向性を養うことを目指す。	2	2～	後期	2	フィールドワーク(野外観察実習)	◎	○	◎	○
看護学の世界	「看護」とは、他者をケアすることであり、人を気づかう、配慮することを含めた他者に対する行為を意味する。看護は、対人関係を基盤にしているため、その人が経験している病むことの苦悩や、回復の喜びに、どれほど寄り添えるのかが看護の質を左右する。本科目では、ケアすることの意味を基盤に、人が人をケアする「看護」について具体的な事例を用いながら探求していく。|	1.人が人をケアする「看護」の意味について考える。|2.人間の成長発達を踏まえた看護の特徴について理解する。|3.人が生きること、老いること、病むこと、死ぬことに関わる看護について 考える。|	2	1～	後期	1	グループ ディスカッション	◎	△	○	△
女性の生涯と健康	看護学から見た生涯を通じた女性の心身の健康について学ぶ|女性のライフサイクルにおいて、大学生は性成熟の観点から節目の時代と言える。この時期に|自分の心と身体の健康について関心を抱き、主体的に考え、行動できる力を養うことは、学生自|身のこれからの人生にとって有意義である。そこで現代女性の健康問題を取り上げ、学習と実践|を通して自分の健康を自己管理できるようになることをねらいとする。|＃女性 ＃女性教育	1.自分の心と身体に関心を持つことができる。|2.健康ノートを毎日記録することで、継続する力を獲得する。|3.短時間に自分の考えを表現する力を獲得する。|4.女性である自分に誇りを持つことができる。|	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	○
保健概論	生涯を通じて健康に過ごすために、「からだ」と「こころ」の健康について考えることは重要である。本講義では、初等中等学校の教育課程で学習してきた科目「保健」の内容を基盤とし、健康に関する科学的知識の理解を深め、大学における学びに展開していくこと計画している。特に、大学生として自らの健康についての理解だけではなく、他者に発信できるように内容を主体的に学修をしていただきたい。授業の目標として、地域住民の健康増進のためにどのような貢献ができるのか自分の考えを整理する。そのために、受講者間で話し合いながら学修内容を共有していくことが求められる。‖＜履修の注意事項＞|毎時間、ノートパソコンまたはiPadの持参をしてください。|授業の配布資料及び授業票の提出などはMoodleを使用して行います。授業連絡や授業内容を示します。授業の展開は、以下の講義スケジュールで示していますが、履修者数や進度によってテーマの内容が前後することもあります。|授業時に配布する予定資料がある場合にMoodle上で提示します。|本授業はグループでの演習を予定しています。 105分の授業の展開方法の詳細は、受講者数確定後に説明します。‖#女性	1. 小学校から高等学校までに学んできた科目「保健」 の知識をもとにしてわたしたちのからだとこころの健康について科学的知識の理解をする。|2. 健康づくりのために必要な科学的な知識をまとめることができる。|3. 健康に関するテーマについて資料を集め、分析し整理することができる。|4. 自己の健康課題についてふりかえり、自分の意見を発表し論じることができる。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	△	○	△
リハビリテーション入門	1. 疾病構造(国民全体における病気や障害の種類や量的な存在の関係)が変化し高齢者人口が増加してい| るわが国において、医療・福祉(介護)・健康増進等の幅広い分野で必要性が高まるリハビリテーシ|ョン医療の必要性を理解する。|2. リハビリテーションでは健康の維持や、各種疾患・障害に対応する個別の療法が実施されている。本講| 義では健康維持から、実際の医療機関で行われているリハビリテーションの内容を学ぶ。|	1. 人体の構造や機能について理解を深める。|2. リハビリテーション医療における理学療法のあり方および理学療法士の役割を理解する。|3. 各種疾患に対する具体的な理学療法を理解し、健康な生活を維持するため、自らの生活を振り返る機会|とする。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	△
健康に生きる	本講義の目的は、学生が医療や健康に関する基礎知識を理解することである。|本講義は対面授業で授業で実施する。講義の資料・課題の提示はMoodleで行う。|#女性 #ICT	1. 健康を保持するための正しい知識をもつことができる。|2. 健康の自己管理について理解することができる。|3. 身近な病気について理解できる。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
女性と運動	女性は、生物学的に男性とは異なる構造・機能を持っている。女性は、妊娠時の姿勢の変化やそれに伴う骨盤痛、閉経後の尿失禁、女性ホルモン減少による骨粗鬆症など、ライフステージを通して運動や活動に関わる多くの身体的変化を経験する。本科目では、このような女性特有のライフイベントや女性特有の問題に対し、運動による治療介入を紹介し、女性と運動の重要性を解説する。|	1)女性に多い病気とその特徴が理解できる|2)女性特有の病気や問題に対する運動の介入方法が理解できる。|3)具体的な運動内容を学び運動の重要性が理解できる。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	△
女性のための栄養学	食事や栄養学的な観点から健康的な一生を送るために必要な知識を修得する。|	女性に起こりうる疾病や食事、栄養に関する課題について知り、実際の生活に活用できる。	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	
ジェンダー論入門	ジェンダーについて考えることとは、男女に関すること(「男とは何か」「女とは何か」「男らしさ」「女らしさ」など)を取り巻く様々な社会的事象について考えることである。しかし同時に、「人と人との関係性」について考えることでもある。近年、もはや男女平等は実現しており、ジェンダーについて考える必要はない、男女ではなく個人の問題で自己責任である、という風潮がしばしば見られる。しかし、新型コロナ感染拡大の時代を経て、ジェンダーに関する社会問題はより向き合うべき重要な課題となっている。本講義では、様々な人間が生きる社会とは何かという視点から、「あたりまえ」「よきもの」とされているジェンダーを再考する。身近な問題としての恋愛や結婚、家族、教育、労働など現代社会で生きる上での様々な場面や切り口から、ジェンダーについて学び、「自分とは異なる価値観、生き方の、様々な他者をいかに尊重するか」という問いを探っていく。|	1. 社会の「当たり前のことを疑う」という視点を持つことができる。2. ジェンダーについて、現代社会との関連で学び、自分なりの考察を行うことができる。|	2	1～	後期	1	なし	○	○	○	◎
女性と家族	現代社会においては、多様な個人が多様なライフスタイルを選択することが表向きは可能とされている。しかし、現実にはしばしば、「あたりまえ」とされている生き方が、多様な個人の生き方に影響を及ぼす。‖結婚する、就職する、子育てをする、というこれまでの「あたりまえ」から、より多くの人が多様な生き方を選択する時代、また新型コロナ感染拡大の時代を経て、「どのように生きるか」は現代を生き抜くための大きな課題と位置づけられることとなる。‖授業では、「家族のあり方」を軸に、「あたりまえ」とされる現実が、なぜ存在しているのか(歴史や社会構造)、また、どのような形で存在しているのか(社会制度)について学ぶ。さらに、それらの「社会と家族のしくみについて知る作業」を通じ、他者への想像力を育み、多様な個人のライフスタイルを尊重した家族の可能性について考察する。‖※初回授業はオンライン授業(Moodleにて指示)となります。その後の授業形態については随時お知らせしますが、状況によってオンデマンド授業となる可能性があります。	1. 私たちが「家族」に関し思い描くイメージを出発点に、「家族」のイメージの成立、様々な「家族」の形態、「家族」の中における関係について理解を深めることができる。|2. 人が生きることにおいて、人と人との結びつきとしての「家族」がどのような意味を持つのかについて、ジェンダー、社会制度などをキーワードに、様々な事例を見ながら考察を行うことができる。|	2	1～	前期	1	なし	○	○	○	◎
女子学	本講義は、近年急速に広がってきた「女子」という言葉に注目し、その言葉の背後にある、女性の新しいライフスタイルを明らかにしようとする、学問横断的なオムニバスの講義である。‖具体的には、ファッションや写真、マンガ・アニメ、ファン活動などの女性の趣味的な領域を対象とし、そこでの女性の(男性と比較した場合の)新しい行動や思考の様式を明らかにする。‖本講義で「新しい女性のライフスタイル」を学ぶことによって、従来の女性像を相対化し、学生たちがより自由に自分のライフスタイルを考えることができるようになることを目指す。‖#女性 #女性教育	|(1)文化研究の基礎的な考え方を学び、それに基づいて文化現象を考えることができるようになる。|(2)具体的な文化現象をとおして、女性の置かれた現状・問題点を考えることができるようになる。‖	2	1～	前期	1	なし	○	○	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 （○印は必修）	配当年次	開講区分	レベル （低1～4高）	アクティブラーニング※の実施について （具体的にお書きください）	知識・理解 （基礎力）	汎用的技能 （思考力・実践力）	態度・志向性 （思考力・実践力）	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
女性の歴史	この授業では、毎回ひとつの事例をとりあげる。|その事例を歴史的に学び、かつ、現代社会におけるありようについても考える。|テーマとしては、教育や労働における諸権利の獲得の歴史から、比較的身近な生活の問題として身体観、外見（見た目）、子ども向け玩具等についても歴史的アプローチをとって学習する。||基本的に近現代日本について学ぶが、現代社会もしくはこれからの社会の課題解決に歴史的視点を取り入れることができるようになることを目指す。||また、最終レポートには入念な準備（聞き取り調査、インタビュー）が必要であるが、上記の目標のためのトレーニングとして考えている。||#女性	この授業の目標は以下である。|| ・現代社会における「性差」「ジェンダー」についてのより深い理解| ・これからの社会に必須の「性の多様性」獲得のためのより深い理解| ・ひとつの事例を、歴史的な視点を含む多角的視点で理解できる力| ・現代社会の課題解決に、歴史的アプローチを活かせる力||#女性	2	1～	前期	1	なし	○	○	○	◎
女性とコミュニケーション	心身ともに健康でより充実した学生生活、社会生活を送っていくために、日常生活で出会うさまざまなコミュニケーション上の問題や課題に「自分で」「創造的」「効果的」に対処できるよう、必要な知識やコミュニケーションスキルの習得、向上を目指す。|また、コミュニケーションにおける「ジェンダー」をめぐる問題について考える機会を得ることにより、自分の立場やその時々の状況に応じた適切な自己表現が出来るようになる。||＃女性|＃グループディスカッション|	「聞く（聴く）」「理解する」「伝える」といったコミュニケーションの基本的な仕組みや意味を理解する。|自分の気持ちや考え、意見をしっかりと伝えられる。|他者の気持ちや考え、意見を受容的、共感的に聴くことができる。|対人関係における悩みや困りごととの付き合い方のヒントを身につける。	2	1～	前期	1	他者の気持ちや考え、意見を受容的、共感的に聞くための傾聴実践を取り入れる。	△	○	◎	○
国際社会とジェンダー	この授業では、受講生がグローバル化のなかで変化するジェンダーをめぐる課題と困難を、歴史的、地理的、社会的視点から理解できるようになることを目的とする。|#女性 #女性教育 #SDGs	(1) 西欧近代以降の人権にかかわる思想と実践における女性の不在について知る。|(2) 女性の権利獲得運動の歴史を確認し、それらがLGBTQの運動へと展開していった経緯を、ジェンダーとセクシュアリティをめぐる議論とともに理解する。|(3) ジェンダー主流化のなかで自身の日常と未来について考えるきっかけにする。	2	2～	後期	2	発見学習	○	△	○	◎
女性と社会・仕事	・女性をとりまく労働問題の歴史的背景を知る。|・現代社会において女性、とくに若い女性が抱える働き方や生活に関する問題を、社会意識や日本型雇用や制度と関連させながら考える。|・現代社会で生活する女性の実態を、政府統計、書籍、新聞記事等から情報を得る。その上で、自身のライフコースを考え、社会変革への視点を主体的に持つ。|	・現代社会に生きる女性が抱える問題と、その問題の社会的・歴史的背景を理解できる。|・女性に偏った無償労働の負担が、女性の生き方や労働全体のしくみとどう関係しているかを知る。|・様々な情報について、データを読み解く姿勢を身につける。|	2	2～	後期	2	なし	○	○	○	◎
女性と身体	学生が「女性」について、「身体」を手掛かりに、特に社会との関わりの側面に関して理解を深めることを目的とする。||＃女性	「『女性』とは何か」という問いに対して、特定の生物学的カテゴリーといった説明以外に、歴史、社会構造、文化等、その身体と社会との関わりとの観点から説明ができるようになる。|現代社会において「女性」が何を意味するのかを複数の観点から考えることができるようになる。|	2	2～	後期	2	なし	○	○	○	◎
女性のための法律	受講生が、それぞれの今後の生活・人生の中で、どのような立場、環境にあっても、自立し、責任感をもった一個人として、力強く、しなやかに生きていくために、社会や家庭の中で、どのような権利を持ち、義務を負い、責任を果たすべきかを考える上で必要な法的視点を養う。|また、現行の法制度や社会制度に残るジェンダーバイアスにも敏感になることで、「あたりまえ」を疑い、他者に対する想像力・共感力を養い、女性としての生き方についても多様な選択肢があることを認識していきたい。	他国との比較や、過去の歴史的経緯とも比較をしながら、特に日本国内に生きる女性たちが置かれた現状を知る。|女性たちが置かれた状況（特に権利、法的利益）に関して、どのような法制度が存在し、若しくは存在していないか（不十分であるか）を知る。|日本国内に存在する法制度やその運用を取り巻くジェンダーに関する問題を知る。|女性としての生き方、選択肢には多様性があることを認識する。	2	2～	前期	2	なし	◎	△	○	
ヨーロッパの文化	この講義では、「食文化」を通して、ヨーロッパの歴史や思想、宗教、さらに政治や経済など幅広い分野について理解を深めることを目標にします。ヨーロッパの食文化やその背景を知るだけでなく、現在のヨーロッパの国々が誕生した経緯や欧州連合（EU）が結成された背景や、ヨーロッパに住むさまざまな人びととその文化について学びます。同時に、授業で扱うテーマを通して、現在のヨーロッパ社会の抱える諸問題についても考察の対象とします。	・ヨーロッパの文化や現在の情勢、その背景について理解を深めます。|・異なる文化や社会、習慣を学び、現在の日本に生きる自分自身の立ち位置と比較し、考察することで、| 異文化を理解します。|・グローバル社会において、欧米で生活するための必要な知識を身に着けます。||【MCC10】◎文化理解、社会問題理解 ○多文化共生構想力	2	1～	後期	2	なし	◎	△	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
アジアの文化	この講義では、まず、アジア全体の基礎知識を学び、最も広く多様なアジア諸国の文化や社会などを理解することを目的とする。次は、アジアの中でも日本は東アジアの一員であることから東アジアをより具体的に学び理解することである。最後に東アジアの中で文化的・地理的あるいは政治的に日本とより深くつながりのある韓国との関係を学ぶことである。‖対面授業	アジアの地域から文化、歴史などの全般的に理解ができ、日本と深くつながりがある隣国との相互関係を理解し、説明ができる。‖【MCC(Multicultural Communication Competencies)10 身につける力】|◎文化理解 ◎社会問題理解	2	1～	後期	1	なし	◎	△	○	△
現代ヨーロッパ事情	EU・Brexitの概要、移民問題、女性活躍、地球環境問題への取組等についてのヨーロッパの現状や課題につき理解を深める。個別国では特にイギリス、フランス、ドイツに焦点を当てつつ、またロシア、トルコ、中東等の周辺国・地域を含めた実情につき考察を行う。一部テーマについてはゲストスピーカーの招請も想定する(オンライン含む)。|	EUやイギリスを中心とするヨーロッパ各国の政治・経済・文化等の現状を理解することにより、特にヨーロッパで先進的に進行する地球温暖化対応や多文化共生等につき各人が考察・分析し、直面する課題の解決策を考案する構想力を身に付ける。	2	1～	前期	2	なし	◎	△	○	△
現代アジア事情	日本と地理的にも近く古くから交流が盛んなアジア地域の歴史、現状について、日本との関係を念頭に理解する。中国やインドなどが経済大国として浮上し、国際社会における存在感を増すことにより、国際情勢にどのような影響を及ぼすのか考察する。	文化、歴史、民族、宗教などアジアの多様性について理解を深める。それぞれの国・地域と日本との関係を把握し、政治体制の違いや現在の国際情勢の中でどのような課題を抱えているのかを説明できる。|	2	1～	前期	1	なし	◎	△	○	△
グローバル社会論	グローバル化する社会と環境との関係を、マクロな政治経済の動きを踏まえて理解することが目的である。地球環境問題のなかでも、グローバルな社会の動きとの関連から、森林など自然環境の破壊と保全について検討する。国際的な自然環境保護のための枠組みや取り決めをめぐっての利害関係を整理し、一見、環境を良好に保つと思われる制度・政策が、実は有害ですらあり得ることを明らかにしてゆく。|授業は対面での実施を予定しいているが、新型コロナウィルスの感染状況によっては、オンラインでの実施に切り替える可能性がある。|	近年の国際的な環境問題や、さまざまな取り組み、枠組み作りについて、その政治的な構図を読みとり、問題点を指摘することができるような能力を身につける。	2	1～	後期	1	なし	◎	○	○	△
海外学習マネジメント	This course is for students who are interested in studying or doing an internship abroad, following a future career using a foreign language, or travelling/working abroad in the future.‖Depending on numbers, the course will use a workshop approach. Students will actively consider how to: set their own language study goals, manage practical details of living and studying abroad. In particular, we will focus on how to deal with risks and challenges they may face when abroad.‖授業は、日本語も英語で行います。|The class will be conducted in English and Japanese.‖"Homework" includes:|-- preparing for the following class;|-- reflective worksheets after each class|** It is expected that homework tasks will take around 5 hours per week on average.	Students will learn how to:|-- set their own language study goals;|-- manage practical details of living and studying abroad;|-- deal with risks and challenges they may face when abroad.‖#グループワーク	2	1～	前・後期	1	なし	△	◎	○	◎
海外演習A	東アジア圏(韓国、インドネシア等)の大学付属の語学学校等で、語学や文化を学ぶ1～2週間の短期留学プログラム	グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができることを目標とする。	1	1～		1	なし	△	○	○	◎
海外演習B	英語圏(カナダ、イギリス、アイルランド等)および東アジア圏(中国、台湾、フィリピン等)の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ3～4週間の短期留学プログラム	グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることを目標とする。	2	1～		1	なし	△	○	○	◎
海外演習C	英語圏(アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド等)の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ5～6週間の中期留学プログラム	グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができることを目標とする。	3	1～		1	なし	△	○	○	◎

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
海外演習D	東アジア圏(韓国、台湾等)の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ5～6週間の中期留学プログラム	グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができることを目標とする。	3	1～		1	なし	△	○	○	◎
海外演習E	英語圏(アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド等)の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ7～8週間の中期留学プログラム	グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができることを目標とする。	4	1～		1	なし	△	○	○	◎
海外演習F	東アジア圏(韓国、台湾等)の大学付属の語学学校で、語学や文化を学ぶ7～8週間の中期留学プログラム	グローバルに活躍できる人材の育成を目的としており、語学力の向上はもちろん、世界からの留学生たちとの交流や活動の機会を通して、異国の文化や価値観への理解を深めることができることを目標とする。	4	1～		1	なし	△	○	○	◎
造形芸術(絵画)	デッサンが上手くなりたい、色を上手く扱えるようになりたい、もっと深く絵画というものを理解したい…。そう考える人が結構多いのではと思います。授業では先ず絵画を鑑賞し、画家を知り、成立させている主な要素(テーマ、構図、形、配色)について学び、意図、オリジナリティー、背景を知ることで名画の秘密を理解します。また、実技を通して、デッサンの基本、配色の理解や効果を学び、基礎造形力を養うことを目指します。‖	●絵画作品の見方や造形の意味、また、画家の人生を理解できる。|●透視図法の理解、基礎的なデッサン技法の習得と、色彩の基礎理論、色彩構成力を身につけることができる。|●基本的な美術のセオリーと絵画の成立過程を理解し、鑑賞すること、表現することが楽しめるようになる。	2	1～	前期	1	問題解決学習	△	○	◎	○
造形芸術(彫刻)	デッサンが上手くなりたい、美しくモノ作りをしたい、彫刻について深く知りたい…。手でものを作るという行為は、この現代にあっても尚、人々を魅了し続け、また、素晴らしい作品との出会いには、言い知れぬ感動を覚え、その後の人生に大きな影響を与えるかもしれません。|授業では、彫刻の名作をひも解き、内容、考え方を理解し、立体物としての見方、捉え方を学び、デッサンと小立体の制作を通して基礎造形力を養うことを目指します。|	●立体であることの魅力、意味、作品に込められた思いや時代を知り、技法、造形作用を理解できる。|●デッサンの基礎技法の習得と、立体の基礎造形力を身につけることができる。|●基本的な美術のセオリーを理解できる。|	2	1～	後期	1	問題解決学習	△	○	◎	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
音楽の基礎	音楽の基礎的な知識を深め、かつ能力を高める事により、より音楽を楽しむ事の出来る事を目的とする。	下記のテキストに沿う楽典・音楽理論を学習し、音、音程、音階、リズム、調、和音、コード・ネーム等を理解する。第5章・6章・8章に関しては他の章と平行して学習する。	2	1～	前期	1	発見学習	◎	○	○	△
合唱音楽	合唱において歌を歌うことにより自己表現の大切さを体験する。将来合唱を指導しようとする指導者としてのヒントが得られる。	学期末令和7年(2025年)1月6日(月)17時30分スタート、18時30分終演予定に本学の芦原講堂にて演奏会を行う。演奏会は月曜3限と月曜4限の2クラスによるジョイント・コンサート形式(各クラス2曲、ジョイント・ステージ3曲)で発表会を行う予定です。‖選曲に関しては第1週目の講義(リハーサル)時におけるパート分けの時の声を聴いてそれを行う。ただしジョイント・ステージの3曲の内の2曲は決まっている(坂本浩美作曲「旅立ちの日に」、G.フォーレ作曲「レクイエム」より「Pie Jesu」)。ジョイント・ステージの終曲はアニメ主題歌・J-pop(『鬼滅の刃・無限列車編』主題歌の「炎」、朝ドラ『ちむどんどん』主題歌の「燦々」、朝ドラ『舞い上がれ』主題歌の「アイラブユー」、朝ドラ『らんまん』主題歌の「愛の花」)などを講師がアレンジし、それをレパートリーにする。ステージジョイント・ステージの3曲は暗譜(楽譜の自分のパートを覚える)する事。|	2	1～	後期	1	体験学習	△	○	○	◎
音楽鑑賞A	世界の諸地域で人々はダンスを踊り、劇を演じる。そのようなパフォーマンスには常にともに音楽が奏され、さまざまな特徴や役割をもつ固有の楽器や発声法、さらに多様な形態のアンサンブル方法をもつ。ここで音楽は重要な役割をもち、それは人々の生きかたや行動様式にも結びついている。本講義では、その中で生み出される諸民族の地域や歴史に根ざした音楽、ポピュラー音楽、そして芸術音楽を鑑賞し、その内容を考察する。その音文化を生み出し、受容する人間の音楽行動を見つめ直すことで、音楽そのもののみならず、音楽を育む文化について知識を深め、理解することを目的とする。	世界のさまざまな音楽、そしてその背景となる歴史や社会について、みずから分析、考察できるようになる。	2	1～	前期	1	発見学習	◎	△	○	○
音楽鑑賞B	現在私たちはさまざまなメディアを通して、多様な世界の諸民族の音楽、ポピュラー音楽、芸術音楽などの音楽・音文化を体験、受容している。本講義では、それらを鑑賞し、音楽文化の歴史的・社会的意味について知識を深め、また私たちを取り巻く現代の多様な音楽状況を分析し、理解することを目的とする。	音楽を受容、消費するに至るまでのさまざまな仕組みや、背景となる歴史や社会について、みずから分析、考察できる。	2	1～	後期	1	発見学習	◎	△	○	○
オルガン音楽(構造)	パイプオルガンの基本構造と発音原理を理解することを通じて、また可能な限りいろいろなオルガン音楽を鑑賞して、オルガンとオルガン音楽に親しみを持ち、より多様な音楽文化への理解を深めることができるようになる。音楽のもたらす力を感じ取れるようになる。	パイプオルガンとはどのような楽器でどのような音楽がなされるのか、基本構造と発音原理を理解することを通じて、オルガンとオルガン音楽に親しみを持ち、本学の持つパイプオルガンの楽器としての価値や存在意義を知る。|	2	1～	前期	1	体験学習	◎	△	○	○
オルガン音楽(器楽)	最も長い歴史を持つ楽器の一つ、パイプオルガンとその音楽の発展を、楽曲鑑賞を行いつつたどり、政治経済の発展や音楽以外の芸術との関わりにも留意しつつ、西洋音楽史の流れの中でのオルガン音楽の変遷を知って、オルガンとオルガン音楽に親しみを持つことを目的とする。|	最も長い歴史を持つ楽器の一つ、パイプオルガンとその音楽の発展を楽曲鑑賞を行いつつたどり、政治経済の発展や音楽以外の芸術との関わりにも留意しつつ、西洋音楽史の流れの中でのオルガン音楽の変遷を知ることを通じて、オルガンとオルガン音楽に親しみを持つことができるようになる。	2	1～	後期	1	体験学習	◎	△	○	○
オルガン音楽演習	パイプオルガンとはどのような楽器かを知り、その基本的な操作と演奏を学ぶことを通じて、パイプオルガンとオルガン音楽に親しみを持つようになることを目的とする。‖	パイプオルガンとピアノや電子オルガンなど他の楽器との違いを知り、鑑賞と学びを通じてパイプオルガンとその音楽に親しみを持てるようになる。‖	2	1～	前期	1	体験学習	○	◎	△	○
日本の文化(茶道)	茶の湯の歴史を概観することにより、日本の文化の特徴を考える。茶の湯は、中国の文化を受容した上で、日本独自の変容を遂げた芸術である。茶の湯の歴史を学ぶことを通じて、芸道について、また美術・工芸・建築についても、綜合的に考える。	茶の湯と日本の文化に関する講義を通して、中国の文化を受容した日本の文化を学び、日本の芸道についての知識を身につけ、その思想を理解することを目標とする。	2	2～	前期	2	体験学習、調査学習	◎	△	○	○
日本の文化(華道)	日本の生け花を通史的に概観することにより、日本の文化の特徴を考える。中国の文化をはじめとする外来文化を、受容し変容させるという意味において、生け花は、日本の芸術の典型例の一つである。歴史を振り返り、さらには植物の美の普遍性、また飾る空間等についても考えたい。	生け花の講義及び実践をとおして中国の文化をはじめとする外来文化を受容した日本の文化を学び、日本の芸術の知識を身につけることを目標とする。	2	2～	後期	2	体験学習、調査学習	◎	△	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 （○印は必修）	配当年次	開講区分	レベル （低1～4高）	アクティブラーニング※の実施について （具体的にお書きください）	知識・理解 （基礎力）	汎用的技能 （思考力・実践力）	態度・志向性 （思考力・実践力）	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
ホスピタリティ入門	ホスピタリティを多角的に考察していく。|「ホスピタリティ」の語源の意味から知ることにより「おもてなし・思いやり」の理解度を高め、日常生活の中で行動化できる人間になる。||将来、社会人として企業で仕事に携わる中で、一人のホスピタリティがどれだけ企業の利益を生むかを学ぶ。|理解しやすいよう、事例研究としていくつかのホスピタリティ産業を取り上げ、ホスピタリティマネジメントの必要性を知る。||現在、多くの企業で求めている人材に「コミュニケーション能力」が挙げられており、言語・非言語コミュニケーションこそがホスピタリティ発揮に密接に繋がっている。ホスピタリティを学ぶことにより、コミュニケーション能力も向上することを学ぶ。	①現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解する| ことができる。（知識・理解）|②ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。（知識・理解）|③ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。（思考・判断・行動）|	2	1～	前・後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	△	△	△	◎
キャリアデザインⅠ	充実した学生生活を過ごし、卒業後の進路選択のための力を身につける講座です。||授業内でいろんな人と交流しながらコミュニケーション能力や課題解決思考について学びます。|また、キャリアデザインで必要な「自己理解」「社会理解」を深めます。||背景:|社会に出て自分の進路を選んでいくためには、コミュニケーション能力や課題解決思考といった土台となるスキルを身に付ける必要があります。また、自らの進路選択（キャリアデザイン）を行うために、情報を集めたり整理発信することが重要です。この授業では、社会で活躍するための基礎になる、社会人基礎力を養いながら、将来の進路設計に必要な「自己理解」「社会理解」を深めます。||＜グループワークや発表を多数行う実践型の授業です＞|・社会人に求められるコミュニケーションスキルを身につける。|・協同学習を通して自分のキャリアを形成するために必要な基本的態度を身につける。||使用ツールについて|CampusSquare、Moodleを利用します。	・考え抜く力|答えが決まっていない問いに対して、必要な情報を収集し、仮説を立てて、自分なりの結論を導き出すことができる。|・主体的に行動する力|グループワークを通して、自ら目標を設定し、実践することができる。|・コミュニケーション能力|グループ内で、相互の意見を交換し、自分の意見を論理的に伝えることができる。|・キャリアデザイン|大学生活、卒業後の進路について目標設定して行動計画を立てることができる。	2	1～	前・後期	1	グループワーク、 グループ・ディスカッション	◎	○	○	△
キャリアデザインⅡ	本講義は就職活動に関する知識と実践技法を学ぶための講義です。|前半は「仕事をするってどういうこと？」「どんな仕事があるの？」などをテーマに選択肢を発見することを目的とします。|中盤から後半では「自己分析と理解」「文章にする」をテーマにしながら「企業の選考活動・学生の就職活動に関する知識と実践技法をみにつけること」を目的とします。講義ではセルフワークとグループワークを織り交ぜて行うため、履修希望者の皆さんは前向きな姿勢で挑んでください。|なお、講義は原則対面形式で実施しますが、講義の連絡および課題提出など、必要に応じてMoodleを使用します。|	①業界・会社・職種に関する情報探索行動が行えるようになる|②グループワークを通して自らの考えを述べる・他者を受容することができるようになる|③自己理解にもとづいて、自己のことを他者に伝達できるようになる|	2	2～	前期	1	グループワーク、 グループ・ディスカッション、 ディベート	△	○	◎	○
キャリアのための日本語	就職活動や社会において必要となるさまざまな表現力を身に付ける。具体的には、自己PRやディスカッションなどにおける「話す力」を身に付けること、また、履歴書やエントリーシートなど、就職活動において求められる「書く力」を身に付けることをねらいとする。	1，自分の特性や強みを知り、過不足なくアピールできる。|2，面接等において、適切な言葉・表現を用いることができる。|3，社会において求められるビジネスマナーを習得できる。|4，他者の意見を取り入れつつ、建設的な話し合いができる。	2	1～	後期	1	グループワーク	◎	○	○	○
キャリアのための数学（ベーシック）	・仕事でもプライベートでも、社会で生活していくためには、数学的な考え方を身につけておくことが大切だ。| この授業では、数学的思考の基礎となる計算や割合の考え方、公式の活用方法などを学び演習を行う。|・「数学に苦手意識を持っている人やきちんと基礎固めをしたい」という人を対象とした内容となっている。|・「数学が得意な人や公式や基本的な考え方は理解できる」という人はこの授業を履修せず、「キャリアのための数学（スタンダード）」を受講することを推奨する。|・初回授業のみテキストなしでも受講できる。| 2回目以降も継続してこの授業を履修する場合はテキストを購入し、必ず持参すること。||【授業での使用ツールについて】|・この授業では、CampusSquare と Moodle を使用します。|・全体への連絡は CampusSquareの掲示板を通してお伝えします。| 必ず、担当講師からのメールをこまめにチェックしてください。	・社会で求められている数的能力を活用できる|・分数や小数、割合、方程式、場合の数と確率の計算が正確にできる。|・基本的な図表の読み取りができる。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	○	○	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
キャリアのための数学(スタンダード)	・仕事でもプライベートでも、社会で生活していくためには、数学的な考え方を身につけておくことが大切だ。この授業では、ビジネスで必要とされる数学的思考の基礎となる数的処理を中心に演習を行う。|・この授業では、「キャリアのための数学(ベーシック)」で学ぶ各種の計算ができることを前提に、応用的な問題を速く正確に解けるようになることを目指す。基本的な計算(分数や小数の計算、割合の基本的な考え方など)や数学が苦手な人は、先に「キャリアのための数学(ベーシック)」を受講することを推奨する。|・初回授業のみテキストなしでも受講できる。| 2回目以降も継続してこの授業を履修する場合はテキストを購入し、必ず持参すること。||【授業での使用ツールについて】|・この授業では、CampusSquare と Moodle を使用します。|・全体への連絡はCampusSquareの掲示板を通してお伝えします。|(担当講師からのメールをこまめにチェックしてください)|・資料やテストはMoodleで配信・実施しますので、使用方法をマスターしておいてください。	・社会で求められている数的能力を活用できる|・基本的な図表の読み取りができる。 |・基礎の知識をもとに応用して活用することが出来る	2	1～	前・後期	1	なし	◎	○	○	△
キャリアのための時事問題	戦後から現在にかけての国際関係、現在の日本の政治・経済・社会状況、近年の国際社会の変化と課題等への理解を深め、各人が特に関心を持った事象を深堀してその背景や影響などを探究する。また平時より新聞・テレビ等を通じて関連する時事問題にアンテナを張る習性を身に付ける。||	日本及び世界各地で生じている政治・経済・社会事象を理解した上で、各事象の問題点や影響を考察する力を習得するとともに、その課題解決方法を考案する構想力を身に付ける。	2	2～	前・後期	2	なし	◎	○	○	△
英語会話Ⅰ	The aim of this course is to encourage students to communicate in English, practice using vocabulary and learn other basic skills for confident self-expression in daily life settings. Students will focus on listening and speaking skills with an emphasis on using practical, everyday language.|*This course is taught in English.||*You will be expected to do 1 hour of pre-class preparation and 1 hour of post-class reading or assignments every week.	By the end of the course, students should be able to introduce themselves and others, talk about self, family, friends, and experiences; describe situations, places, and future plans. In addition, students should be able to complete all the required tasks and reach respective benchmarks at their level.	2 ○	1	前期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	△	△	△
英語会話Ⅱ	The aim of this course is to encourage students to communicate in English, practice using vocabulary and learn other basic skills for confident self-expression in daily life settings. Students will focus on listening and speaking skills with an emphasis on using practical, everyday language.|*This course is taught in English.||*You will be expected to do 1 hour of pre-class preparation and 1 hour of post-class reading or assignments every week.	By the end of the course, students should be able to introduce themselves and others, talk about self, family, friends, and experiences; describe situations, places, and future plans. In addition, students should be able to complete all the required tasks and reach respective benchmarks at their level.	2 ○	1	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	△	△	△
英語Ⅰ	リーディング活動を主に行いながら、基礎的な英語構文力とリーディ|グスキルを養成することが目的である。|音読の仕方、辞書の使い方などを指導し、基本的な学習のスキルを身につけて学生個人が予習・復習の際に活用できるようになることを目指す。|語彙力強化を図ることはセメスターを通じて行う。||	基本的な英文を、文末から訳し上げたり、和訳文を書き取ったりすることによらず、文頭から意味の塊(sense group)を意識しながら読み、文の構造と意味が正確に読み取れるようにする。	2 ○	1	前期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	△	△	△
英語Ⅱ	・リーディング活動を主に行いながら、基礎的な英語構文力とリーディングスキルを身につけることを目的とする。|・音読の仕方、辞書の使い方などを知り、基本的な学習のスキルを身に付けて学生個人が予習・復習の際に活用できるようになることを目指す。|・セメスターを通じて、語彙力の強化を図る。||#グループワーク	・基本的な英文を、文末から訳し上げたり和訳文を書き取ったりすることによらず、文頭から意味のかたまり(sense group)を意識しながら読み、文の構造と意味が正確に読み取れるようになる。||	2 ○	1	後期	1	グループ・ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション	◎	△	△	△

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 （○印は必修）	配当年次	開講区分	レベル （低1～4高）	アクティブラーニング※の実施について （具体的にお書きください）	知識・理解 （基礎力）	汎用的技能 （思考力・実践力）	態度・志向性 （思考力・実践力）	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
韓国語Ⅰ	韓国語の文字であるハングルの読み書き、発音を習得する。韓国語の構造、特徴を理解し、基礎文法を学習する。簡単な日常表現および短い簡単な文章を表現できるように学習する。｜また、韓国語学習の中で韓国の文化、社会および韓国事情について触れることにより、国際的な視野を養う。|授業は、リレー形式で行う。‖	ハングル文字を正確に書き、正しく発音することができる。文章を構成するきまりや規範について理解できる。簡単な文章の聞き取り、簡単な会話ができる。学んだ文字、語彙を用いて平易な文章が書ける。|「韓国語能力試験」2級、「ハングル能力検定試験」5級レベルが到達目標である。‖（イ・ウナ／13回）発音練習、文法説明を行う。リスニング、簡単な会話練習などの実践的な運用能力を高める。日本語との類似点、相違点に焦点を当てて、日本語と比較しながら韓国語の簡単な表現を学ぶ。|（沈 智恩／13回）発音練習、文法説明を行う。リスニング、簡単な会話練習などの実践的な運用能力を高める。日本語との類似点、相違点に焦点を当てて、日本語と比較しながら韓国語の簡単な表現を学ぶ。‖【MCC(Multicultural Communication Competencies）10 身につける力】|◎言語理解（外国語） ○文化理解 ◎言語運用力（外国語）	4	1～	前期	1	グループワーク	○	◎		
韓国語Ⅱ	韓国語の基礎文法を理解する。特に用言の活用に重点をおいて学習する。簡単な日常表現および短い簡単な文章を正確に表現できるように学習する。｜また、韓国語学習の中で韓国文化、社会、韓国事情について触れることにより国際的な視野を養う。｜授業は、リレー形式で行う。‖	韓国語の基礎文法を十分に理解できる。短い簡単な文章を正確に聞き取ることができる。適切な文字、語彙を用いて簡単な表現が正確にできる。個人的情報について質問したり、答えることができる。|到達目標は、「韓国語能力試験」3級、「ハングル能力検定試験」4級レベルである。‖（イ・ウナ／13回）発音練習、文法説明を行う。リスニング、簡単な会話練習などの実践的な運用能力を高める。日本語との類似点、相違点に焦点を当てて、日本語と比較をしながら韓国語の語彙や日常表現を学ぶ。|（沈 智恩 ／13回）発音練習、文法説明を行う。リスニング、簡単な会話練習などの実践的な運用能力を高める。日本語との類似点、相違点に焦点を当てて、日本語と比較をしながら韓国語の語彙や日常表現を学ぶ。‖【MCC(Multicultural Communication Competencies）10 身につける力】|◎言語理解（外国語） ○文化理解 ◎言語運用力（外国語）	4	1～	後期	1	グループワーク	○	◎		
中国語Ⅰ	中国語の発音を習得し、簡単なあいさつなどが話せるようになる。|	ピンインを見て正確な発音ができ、SVO構文の簡単なセンテンスが使える。‖【MCC(Multicultural Communication Competencies）10 身につける力】|◎言語理解（外国語）、言語運用力（外国語） ○文化理解|	4	1～	前期	1	グループワーク	○	◎		
中国語Ⅱ	中国語の基本的な語法を習得し、語彙を増やす。|CampusSquareのレポート管理で課題を提示する。必要に応じて、ZOOM、Moodleを利用した授業を行うこともあるが、その場合は事前にCampus Squareにて通知する。また、学習支援システムで授業の資料を共有することもある。課題の提出はCampus Square、学習支援システムを適宜利用する。|	補語をのぞいた基本的文法について理解する。語彙を自習して補えば中国語検定準4級が受験できるレベルに到達する。‖【MCC(Multicultural Communication Competencies）10 身につける力】|◎言語理解（外国語）、言語運用力（外国語） ○文化理解|	4	1～	後期	1	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語Ⅰ	・インドネシア語の発音と初歩的な文法事項を理解させる。|・挨拶、お礼の表現など、初歩的な会話をマスターさせる。|・インドネシア語文化圏の概略を理解させる。|・インドネシア語はマレー語を起源とする言語であり、互いの言語で意思疎通が可能である。授業ではインドネシア語を学びながら、マレーシア、シンガポールなどで話されているマレー語についても目を向けていく。|	インドネシア語文化圏の背景を学びながら、挨拶やお礼の表現など、初歩的なコミュニケーションがアクティブに行えるようになることを目標とする。マレーシア、シンガポールなど、マレー語文化圏についても目を向けていく。‖【MCC(Multicultural Communication Competencies）10 身につける力】|◎言語理解（外国語） ○文化理解 ◎言語運用力（外国語）	4	1～	前期	1	グループワーク	○	◎		
マレー・インドネシア語Ⅱ	・インドネシア語の初歩的な文法事項を習得させる。|・リスニングや会話の練習を通じ、初歩的な会話が聞き取れ、理解でき、話せるようになるよう指導する。|・インドネシア語はマレー語を起源とする言語であり、互いの言語で意思疎通が可能である。授業ではインドネシア語を学びながら、マレーシア、シンガポールなどで話されているマレー語についても目を向けていく。‖	インドネシア語の初歩的な文法事項を習得し、初歩的な会話が聞き取れ、理解でき、話せるようになることを目標とする。|インドネシア語技能検定E級レベルの力をつけ、更に次のD級レベルをも視野に入れて学習する。‖【MCC(Multicultural Communication Competencies）10 身につける力】|◎言語理解（外国語） ○文化理解 ◎言語運用力（外国語）	4	1～	後期	1	グループワーク	○	◎		
日本語ⅠA（留学生用）	大学での学習をスムーズに行える日本語の力をつける	N1相当の文法知識を得、運用することができる	2	1	前期	3	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 （○印は必修）	配当年次	開講区分	レベル （低1～4高）	アクティブラーニング※の実施について （具体的にお書きください）	知識・理解 （基礎力）	汎用的技能 （思考力・実践力）	態度・志向性 （思考力・実践力）	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
日本語ＩＢ(留学生用)	読解のためのストラテジーを学び、日本語で書かれた文章を読む力をつけることを目的とする。|日本語の力を高めるだけでなく、日本社会や文化への理解を深めることを目的とする。|JLPTN1，N2レベルの取得を目指す。	日本語で書かれた文章が辞書なしで読めるようになる。||主な目標は以下の3点である。|①文章を読むための様々なストラテジーを学び、文章がすらすら読めるようになる。|②読むだけではなく、読んだ文章について話すことで、日本語で質問したり、聞いた内容を確認したり、内容をまとめて伝えることができるようになる。|③様々なジャンルの文章を読むことで、日本社会や文化への理解を深めることができる。	2	1	前期	3	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	◎	○	○	○
日本語ⅡＡ(留学生用)	大学での学習をスムーズに行える日本語の力をつける。	ニュースなど多様な日本語談話を聞いて理解し、豊かな語彙の知識を得る。また、N1の聴解のテストの内容に対応できるようになる。	2	1	後期	3	調査学習、グループ・ディスカッション	◎	○	○	○
日本語ⅡＢ(留学生用)	読解のストラテジーを使い、新聞や小説、Webの文章を読み、読解力をつけることを目的とする。|また、様々なジャンルの文章を読ことで、語彙や表現を増やし、より実践的な日本語力をつけていくことを目的とする。||	日本語の文章を読んで理解できるようになる。|読んだ文章に対する自分の考えをまとめ、伝えることができる。|日本語能力試験N1、N2レベルの読解力をつける。	2	1	後期	3	調査学習、グループ・ディスカッション	◎	○	○	○
日本語Ⅲ(留学生)	レポートなどのアカデミックな文章の書き方を学び、大学での学習がスムーズに行えるようにする	客観的な文章や適切な構成で、レポートが書ける	2	2	前期	4	プレゼンテーション、ディスカッション	○	○	○	◎
日本語Ⅳ(留学生用)	アカデミックなプレゼンテーションの方法を学び、大学での学習がスムーズに行えるようにする	日本語でスライド、スクリプトを作成し、適切なスタイル、わかりやすく明確な発表を行うことができる。積極的に意見交換ができるコミュニケーション能力を得る。|	2	2	後期	4	グループワーク、プレゼンテーション	○	○	○	◎
日本語Ⅴ(留学生用)	評論や新聞などの生の日本語を読解し、それに対する自分の考えを自然な日本語で書いたり、述べたりできるように、語彙を増やしたり、表現を増やしたりすることを目的とする。また、今の日本で起こっている出来事を知り、日本に対する理解を深め、それに対して日本語で意見が述べられ、日本人と議論ができるようになることを目的とする。|＃女性	評論やニュース、新聞で使用される日本語の語彙・表現を習得する。自然な日本語で文章を書いたり、議論をしたりできるようになる。日本の社会、文化、風習に関しての理解を深める。	2	2	前期	4	プレゼンテーション	○	○	○	◎
日本語Ⅵ(留学生用)	・日本の社会や文化について、自分の関心や興味があることを取り上げ、その内容を理解し、自分の意見や考えを根拠とともにまとめることができる。まとめたことを口頭で発表できるようになることを目的とする。|・日本語の運用力を高めると同時に、日本の社会や文化への理解を深めることを目的とする。|・ニュース、報道、ドキュメンタリーなどを材料に日本語で「聴く」そして「調べ」「考え」「意見をまとめ」「述べる」ことができるようになることをめざす。|#女性	ニュース、報道、ドキュメンタリーなどを日本語で聴いて理解できる。|聴いて理解したことについてさらに疑問点を調べることができる。|聴いた理解したこと、調べたことに対して、自分の意見や考えを適切な日本語でまとめることができる。|クラスメートの発表に対して質問したり、またその質問に答えることができる。|日本の社会、文化に対する理解を深め、自分の国やクラスメートの国の文化との相違点や共通点を理解し、それぞれを尊重することができる。	2	2	後期	4	調査学習	○	○	○	◎
日本語Ⅶ(留学生用)	このクラスでは、以下の4点を目的とする。|1. 日本の社会や文化について書かれた文章（エッセイ）を読み、読む力をつける。|2. 読んだ内容についての自分の考えを話したり、書いたりすることで、総合的な日本語力を見つける。|3. 日本語の運用力を高めると同時に、日本の社会や文化への理解を深める。|4. 読解に必要な表現、語彙を増やす。|	・日本語の資料から必要な情報を探し出すことができる。|・読んだ内容に対する自分の意見や考えを適切な日本語で伝えられるようになる。|・クラスメートの発表に対して質問したり、またその質問に答えることができる。|・日本の社会、文化に対する理解を深め、自分の国やクラスメートの国の文化との相違点や共通点を理解し、それぞれを尊重することができる。	2	2	前期	4	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション	○	○	○	◎
日本語Ⅷ(留学生用)	・日本語の文献や資料が読めるようになることを目的とする。|・日本の社会や文化について、自分の関心や興味があることを取り上げ、その内容を理解し、自分の意見や考えを根拠とともにまとめることができる。まとめたことを口頭で発表できるようになることを目的とする。|・日本語の運用力を高めると同時に、日本の社会や文化への理解を深めることを目的とする。|	・日本語の文献や資料を読んで、必要な情報を探し出すことができる。|・調べた内容に対する自分の意見や考えを適切な日本語でまとめることができる。|・クラスメートの発表に対して質問したり、またその質問に答えることができる。|・日本の社会、文化に対する理解を深め、自分の国やクラスメートの国の文化との相違点や共通点を理解し、それぞれを尊重することができる。	2	2	後期	4	グループ・ディスカッション、プレゼンテーション、インタビュー	○	○	○	◎
情報とコンピュータＩ	各自のPCの設定やアプリケーションのインストールなど、PCを運用する能力を身につける。|大学のコンピュータシステムの利用方法を理解したうえで、ファイル・フォルダの管理、Word・Excel・PowerPointの基本的な操作など、大学での学習に必要なコンピュータスキルを身につける。|授業では、各自が準備したPCを使用する。|#ICT	・各自のPCの基本的な設定と運用管理ができる。|・Campus Square、Moodle、Teamsなど、大学のコンピュータシステムを適切に利用することができる。|・目的に応じて適切に設定したメールを送受信できる。|・指定された様式に従って、Wordで文書のレイアウトや書式を整えることができる。|・Excelを使って、関数を用いて表計算を行い、グラフを作成できる。|・PowerPointを使って発表資料を作成できる。	1 ○	1	前期	1	なし	○	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 (○印は必修)	配当年次	開講区分	レベル (低1～4高)	アクティブラーニング※の実施について (具体的にお書きください)	知識・理解 (基礎力)	汎用的技能 (思考力・実践力)	態度・志向性 (思考力・実践力)	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
情報とコンピュータⅡ	社会におけるAIやデータの関わりについて過去から現在までの流れを理解し、これからのAI時代に求められる基礎力を身につける。前期で習得したコンピュータスキルを前提に、統計の基礎的な考えを習得し、コンピュータを用いてデータを分析、表現し、自身の考えを述べる力をつける。|授業では、各自が準備したPCを使用する。|#ICT	・Society5.0の特徴と、AI、ビッグデータとの普及が人々に与える影響について説明できる。|・データサイエンスの必要性とデータ活用のプロセスについて説明できる。|・基本的な統計の考え方を理解し、Excelを用いたデータの集計、計算やグラフ作成ができる。|・統計やデータ分析の活用について、具体的事例を用いて説明できる。|・公的統計データを用いて、データを整理して分析できる。|	1○	1	後期	1	なし	○	○	○	○
コンピュータと社会	コンピュータはその姿をどんどん変え、より身近に、自然に、我々に意識させないレベルで浸透し、情報通信技術の進歩により、いつでもどこでも簡単に、必要な情報が得られ、また発信できる社会となった。情報化は社会のさまざまな側面で進行しているが、その情報を生み出し、利用するのは「人」であること、人が主体となってその利用価値と利用方法をつくっていくことが求められる。また、利便性と危険性は背中合わせであることも忘れてはならない。|本科目ではアクティビティや制作などのアウトプット活動を通して、自身の考えや意見をまとめ、コンピュータが社会にどのような変化をもたらしてきたのかを振り返り、現在のコンピュータと私たちの関係を確かめ、IoTおよびAI技術を活かした、より豊かで公正で快適な社会の在り方について、我々の未来の在りようについて、考えることとする。|また、情報セキュリティに関連する現代社会の諸問題の中から身近なテーマを取り上げ、個人情報保護、著作権問題への意識を高め、自身や周囲の安全を守るために必要な知識を学ぶ。また、IoT、ビッグデータとの関わりと生活への影響、AI(人工知能)がもたらすライフスタイルの変革をより身近なものとして実感することにより、人々の壁を取り払い、社会の課題の解決につなげられるものは何かを考えることを目的とする。|#ICT #アクティブラーニング	コンピュータと社会の関わりについて身近な題材で学び、活動を通して理解を深め、自分の意見を述べることができる。|コンピュータと社会の過去の流れと現在を確かめ、近い将来の社会の在り方について説明できる。|また、データ駆動型社会における正の側面と負の側面および課題について理解し、自身の意見を持ち、他者とかわすことができる。	2	2～	後期	2	なし	○	○	○	○
情報メディア実習	社会に出てから即戦力となれるように、デザインを扱う業務において必須のアプリケーションである、フォトショップ、イラストレーターの基本的な使い方を学習します。各アプリケーションを使い、2～3つの課題を作成します。	Photoshop、Illustratorを使った基本的な操作ができる。印刷利用、Web利用の制作物の違いを理解し、正しくデータを作成することができる。|ドローイングソフトとペイントソフトの違いを理解し、使い分けや連携ができる。|	1	2～	前期	2	なし	○	○	○	○
ビジネス情報実習	情報化社会の発展により、私たちの暮らしの中には多くのデータが溢れている。そのデータを適切な方法で分析するためには、統計学の知識が必要となる。この科目では、統計学の基本的な考え方を学び、Excelを使用して統計分析ができるようになることを目的とする。さまざまな例題に取り組むことにより、情報のデータの扱い方を身につけ、統計分析のスキルを習得する。|#ICT	1. 統計を扱う上でのルール、基礎知識、用語を体系的に理解する。|2. データの種類を適切に把握し、Excelを使って代表値や散布度などの統計解析を行い、データの特徴を説明できる。|3. 調査の背景や目的をよく考え理解することができる。|4. 分析結果を第三者にWordやPowerPointでわかりやすく表現することができる|	1	2～	前期	2	なし	○	○	○	
手話コミュニケーション	①手話検定5級レベルの基本的な手話の習得と会話場面を想定した演習を行い、検定取得を目指す|②耳のしくみ・聴覚障害の種別・視覚的なコミュニケーション方法について理解する|②音声言語と手話言語の違いを理解する|③聴覚障害者の生活やろう教育等の講義を通して、聴覚障害者の行動・思考様式を理解し、真のバリアフリーについて考える|	①手話を用い、手話検定5級レベルの簡単な会話ができる(手話検定案内あり)|②聴覚障害者と視覚的な方法を使ってコミュニケーションがとれる|③聴覚障害についての基本的な知識を持ち、聴覚障害者の暮らし、歴史、文化を理解して、聴覚障害者が平等に参加できる共生社会のあり方を考えることができる	2	1～	前期	1	なし	◎	○	○	○
ノートテイクの方法	学生が「ノートテイク」について知り、聴覚障害者のコミュニケーションを支援できるようになることを目的とします。聴覚障害者への支援方法の1つに、要約筆記があります。これは、その場の音声情報を文字情報に変えて伝達するものです。ノートテイクとは、1～2人の少人数を対象に行う要約筆記のことです。本講座では、コミュニケーションにおける伝達の意味を確認し、書いて伝える技術の基本を学びます。また、ノートテイク実習により、聴解力、要約力の向上が期待できます。	学生が、聴覚障害者支援への理解を深め、ノートテイクの基礎技術を身につける。また、支援現場における対応、モラルを説明できる。	2	1～	前・後期	1	なし	◎	○	○	○

授業科目名	授業科目のねらい	授業科目の到達目標	単位数 （○印は必修）	配当年次	開講区分	レベル （低1～4高）	アクティブラーニング※の実施について （具体的にお書きください）	知識・理解 （基礎力）	汎用的技能 （思考力・実践力）	態度・志向性 （思考力・実践力）	統合的な学習経験と創造的思考力(実践力)
生涯スポーツの科学	現代におけるスポーツの新たな価値を多角的に捉え、様々な楽しみ方や関わり方があることを見ていく。また、健康でアクティブな人生を送るための運動・スポーツの必要性を考察し、スポーツライフの拡大に向けたプロモーションの可能性について探求する。現代社会において、「スポーツ」はきわめて大きく、重要な意味を持つ存在となっている。スポーツを取り巻く様々な出来事・環境・現象を通じて、問題点や課題について考察する。	・スポーツを社会・文化的視点から検討することによって、スポーツに関する認識を深めることができる。|・スポーツを「観る」こと（人々の生活にとって欠かすことのできない楽しみの一つ）、スポーツ大会やイ| ベントを「支える」こと、興味・関心のあるスポーツについて「調べる」こと、スポーツの魅力や面 | 白さを「伝える」こと、といったスポーツへの関わり方について理解すること（行動すること）でき|る。	2	2～	前・後期	2	なし	◎		○	△
トレーニングの科学	健康・体力づくりや身体機能の向上を目的としたトレーニングについての知識を身につけることを目的とする。	本授業では、健康に関連のある身体の形態や機能に関する知識とそれらを測定する方法を習得し、体力トレーニングや技術トレーニングについての理解を深めるとともに、自分自身の身体や健康づくりにも関心を持てるようになる。|実生活において健康や体力づくりに応用できるトレーニングプログラムを立てることができるようになる。	2	2～	前期	2	なし	◎		○	△
健康・スポーツ科学実習A	生涯スポーツの重要性が高まっている現在において、大学時代における「体力づくり」は、人生において大きな意味合いをもつものと思われる。本授業では、生涯スポーツを目指し、スポーツを楽しみながら体力づくりを中心とした内容を展開する。	それぞれのスポーツ種目の特性を知り、楽しくとり組むことができる。スポーツを社会・文化的視点から検討することによって、スポーツに関するより深い認識を得ることを目標とする。	1	1～	前期	1	なし		◎	○	△
健康・スポーツ科学実習B	スポーツは、健康の維持・増進のための有益な活動である。本授業では、そのスポーツ種目の特性、ルールやマナーを理解し、「からだ」を動かすことの楽しさを知るとともに、協調性と自主性を養い、生涯にわたってスポーツを継続できる能力や態度を身につけることができるようにすすめていく。	それぞれのスポーツ種目の特性を知り、楽しくとり組むことができる。	1	1～	後期	1	なし		◎	○	△
健康・スポーツ科学実習C	生涯スポーツの重要性が高まっている現在において、大学時代における「体力づくり」は、人生において大きな意味合いをもつものと思われる。本授業では、生涯スポーツを目指し、スポーツを楽しみながら体力づくりを中心とした内容を展開する。	それぞれのスポーツ種目の特性を知り、楽しくとり組むことができる。	1	1～	前期	1	なし		◎	○	△
健康・スポーツ科学実習D	スポーツは、健康の維持・増進のための有益な活動である。本授業では、そのスポーツ種目の特性、ルールやマナーを理解し、「からだ」を動かすことの楽しさを知るとともに、協調性と自主性を養い、生涯にわたってスポーツを継続できる能力や態度を身につけることができるようにすすめていく。	それぞれのスポーツ種目の特性を知り、楽しくとり組むことができる。	1	1～	後期	1	なし		◎	○	△